

# 福岡南バイパス関係

## 埋蔵文化財調査報告

第 9 集

総 集 編

1 9 8 0

福 岡 県 教 育 委 員 会

# 福岡南バイパス関係

## 埋蔵文化財調査報告

第 9 集

総 集 編

## 序

この報告書は、福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局から委託を受けて、昭和44年度から実施してきました国道3号線福岡南バイパス関係の埋蔵文化財発掘調査の記録に係る総集編であります。

これまで11ヶ年間にわたり、9冊の報告書を公刊してまいりましたが、今回事業を終了するにあたり、各地点の遺跡の概要と各報告書の総目次を作成いたしました。

この報告書は不十分なものでありますが、より広く御活用いただければ、望外の喜びとするものであります。

なお、これまでの長きにわたり、事業が円滑に進みましたことは、九州地方建設局福岡工事事務所、各調査に御協力いただいた地元の方々をはじめ関係各位の御援助と御配慮のたまものであり、衷心から感謝いたします。

昭和55年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 浦山太郎

## 例 言

1. 本書は、建設省九州地方建設局から委託を受けて福岡県教育委員会が実施した。国道3号線福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査の報告の総集編である
2. 本書は、橋口達也と馬田弘稔が分担して作成した。
3. 本書の編集は橋口達也が行った。

# 本文目次

	頁
はじめに.....	1
I 遺跡の概要.....	3
1. 第1地点(小柳遺跡).....	3
2. 第2地点(水城地区).....	3
3. 第3地点.....	4
4. 第4地点(伝刈萱関跡).....	4
5. 第5地点(都府楼前条坊遺跡).....	7
6. 第6地点(御笠川南条坊遺跡).....	9
7. 第6地点(君畑遺跡).....	21
8. 第7地点(池田遺跡).....	21
9. 第8地点(大曲り遺跡).....	27
10. 第9地点(野黒坂遺跡).....	27
11. 第10地点(永岡遺跡).....	35
12. 第11地点(永岡甕棺遺跡).....	36
II 総目次.....	40
1. 第1集.....	40
2. 第2集.....	43
3. 第3集.....	44
4. 第4集.....	46
5. 第5集.....	49
6. 第6集.....	49
7. 第7集.....	50
8. 第8集.....	51
9. 第8集(下).....	53

## 挿 図 目 次

	頁
第1図 福岡南バイパス路線および発掘調査地点	2
第2図 水城地区地形実測図	3
第3図 第3地点付近地形図	5
第4図 第4地点（伝刈萱関跡）付近地形図	6
第5図 第4地点トレンチ層位図	7
第6図 都府楼前条坊遺跡（第5地点A～D地区）全図	おりこみ
第7図 第5地点D地区遺構配置図	8
第8図 第6、6'地点地形図	10
第9図 御笠川南条坊遺跡上面遺構全図	おりこみ
第10図 御笠川南条坊遺跡下面遺構全図	おりこみ
第11図 君畑遺跡遺構配置図	22
第12図 池田遺跡地形図	23
第13図 池田古墳群地形図	24
第14図 第2調査区地形図	25
第15図 1、2号窯跡及び第1号住居跡実測図	26
第16図 大曲り付近地形実測図	28
第17図 大曲り遺跡遺構配置図	29
第18図 野黒坂地形図	30
第19図 野黒坂遺跡遺構配置図	おりこみ
第20図 永岡遺跡付近地形図	35
第21図 E地区地形及び遺構平面図	36
第22図 永岡遺跡遺構配置図	おりこみ

## 表 目 次

	頁
第1表 福岡南バイパス関係埋蔵文化財一覧表	1
第2表 （第6地点）土壙一覧表	9
第3表 （第6地点）井戸一覧表	17
第4表 野黒坂遺跡住居跡一覧表	30
第5表 野黒坂遺跡竪穴（pit）一覧表	32
第6表 （永岡）甕棺墓一覧表	36
第7表 永岡出土人骨一覧表	38

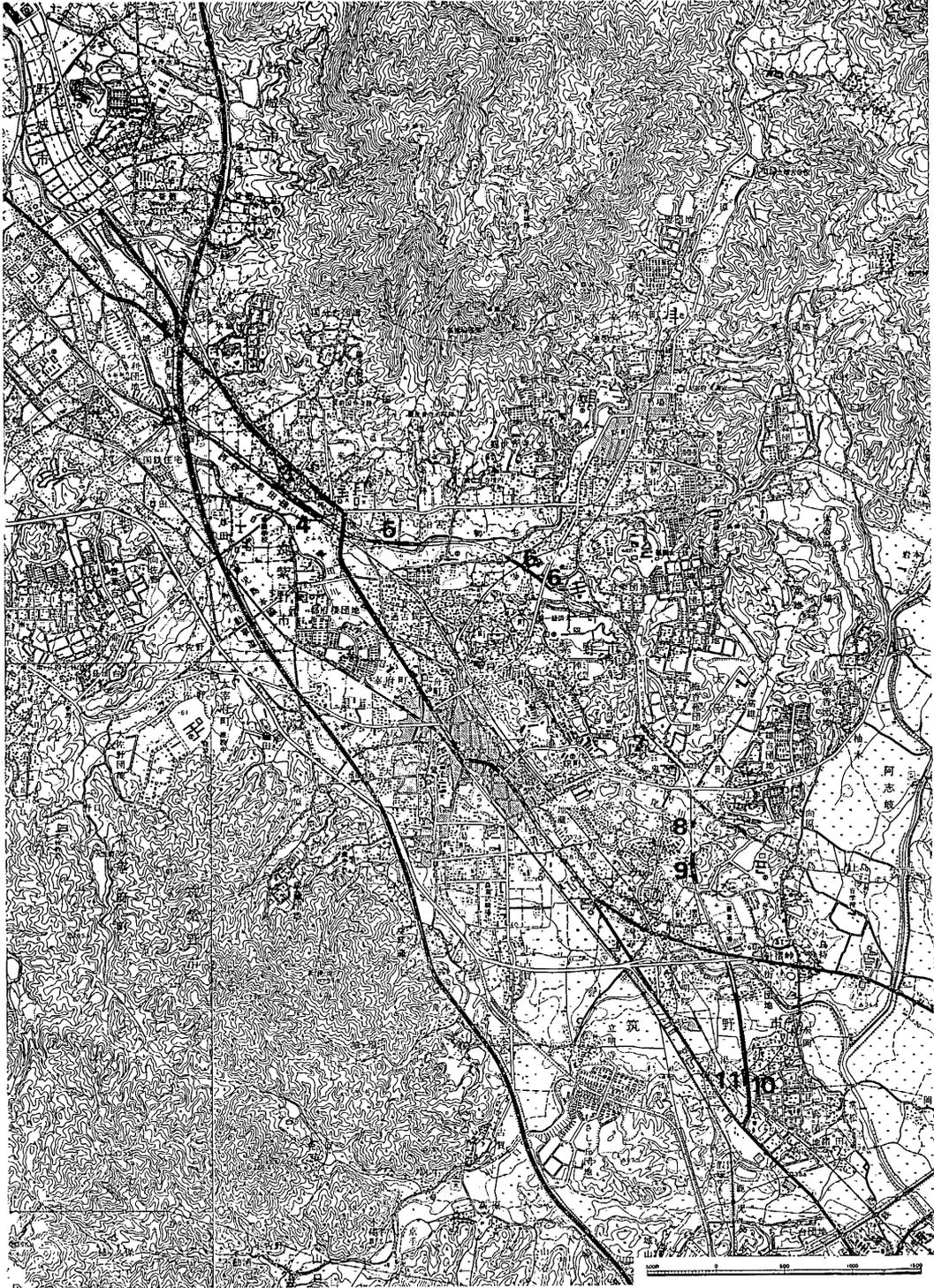
# はじめに

建設省九州地方建設局から委託を受けた国道3号線福岡南バイパス関係の埋蔵文化財の発掘調査は、昭和44年度の文化課発足以来本年度まで通算11年間にわたり、下表のとおり行ってきた。

ここに事業を終了するにあたり、諸者の皆様がこれまでの発掘調査の成果を活用される際の便がよりよくなることを願って、各遺跡の概要と、これまで刊行された報告書の総目次を作成し、総集編としたい。

第 1 表 福岡南バイパス関係埋蔵文化財一覧表

地点番号	遺跡名	所在地	内 容	調 査 面 積										報告書番号		
				44	45	46	47	48	49	50	51	52	53		54	
1	小柳遺跡	筑紫郡太宰府町水城	散布地				m <sup>2</sup> 600									
2	水城跡	〃	水城跡		m <sup>2</sup> 1,600	m <sup>2</sup> 300										1・2
3		筑紫郡太宰府町通古賀													56m <sup>2</sup>	9
4	伝苺萱関跡	筑紫郡太宰府町古賀字関屋	散布地											50m <sup>2</sup>		9
5	都府楼前条坊地域	筑紫郡太宰府町観世・榎寺・通古賀											m <sup>2</sup> 200			8
6	御笠川南条坊遺跡	筑紫郡太宰府町太宰府	条坊遺跡	880m <sup>2</sup>			2,000m <sup>2</sup> 1,000m <sup>2</sup> 1,000m <sup>2</sup> 700m <sup>2</sup> 1,400m <sup>2</sup> 1,050m <sup>2</sup>							(予備調査) (第1次) (第2次) (第3次) (第4次) (第5次) (第6次)	2・3・6・8 <sup>上</sup> 下	
6	君畑遺跡	筑紫郡太宰府町太宰府	墳墓							m <sup>2</sup> 1,000						7
7	池田遺跡	〃	古墳・ 工房跡	500m <sup>2</sup>	100m <sup>2</sup>											1
8	大曲遺跡	筑紫野市針摺	住居跡	200m <sup>2</sup>	500m <sup>2</sup>											1
9	野黒坂遺跡	〃	集落遺跡		8,642m <sup>2</sup>											1
10	永岡遺跡	筑紫野市永岡	散布地	m <sup>2</sup> 8,703	150m <sup>2</sup>											1
11	永岡甕棺遺跡		甕棺墓地				m <sup>2</sup> 1,000									4・5



第1図 福岡南バイパス路線および発掘調査地点（縮尺1/50,000）

# I. 遺 跡 の 概 要

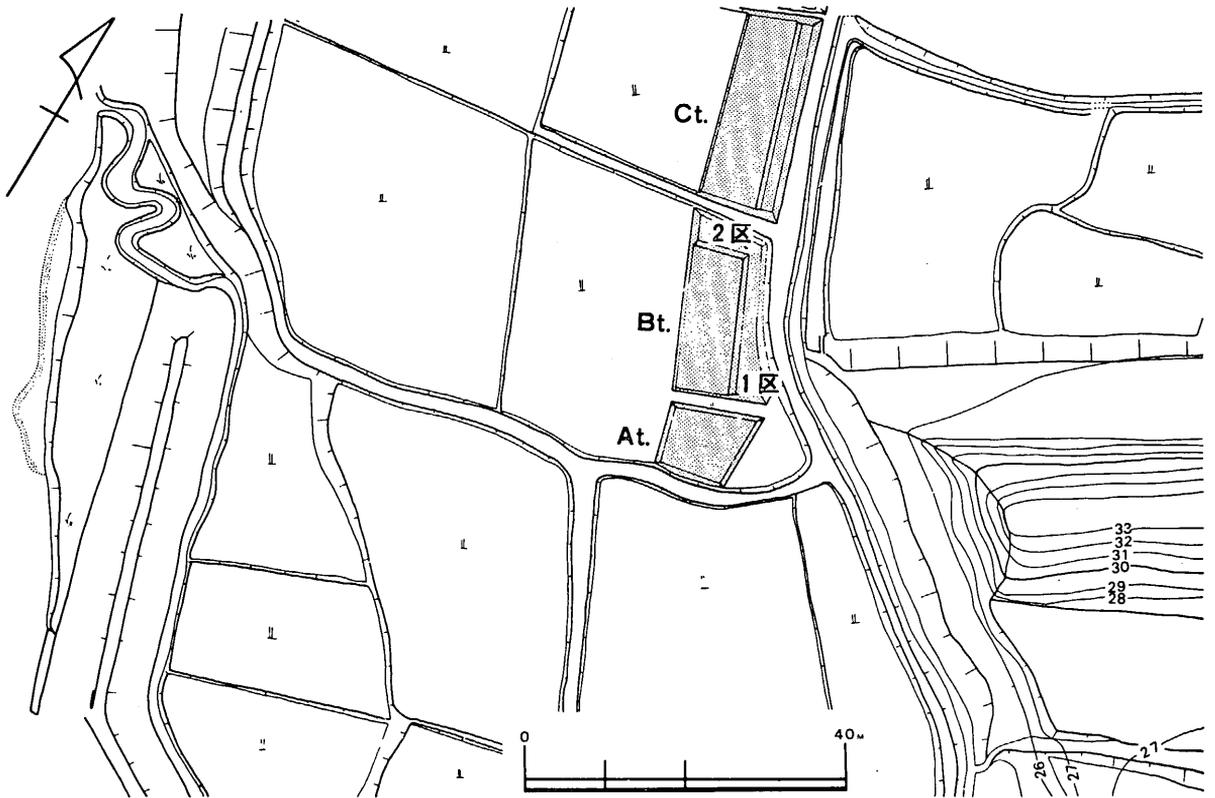
## 1. 第1地点（小柳遺跡）

筑紫郡太宰府町大字水城に所在する。九州縦貫自動車と並行した部分であったので、九州縦貫自動車関係の発掘調査の際、合せて調査が行われた。

調査の結果はこの部分が南東から北西方向へ向う幅約20mの河溝があり、この河溝がもとの谷筋にあたることを判明した。流木の他、弥生式土器、土師器、須恵器等が若干出土した。

註 福岡県教育委員会「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査概報」（総編）1977.

## 2. 第2地点（水城地区）



第2図 水城地区地形実測図

国の特別史跡水城跡は福岡市から久留米方面へ向う最も狭小なところに築かれ、軍事的防衛施設としては好条件を具備している。その水城のほぼ中央部は御笠川によって切断されたごとくに欠堤部分があるが、ここにはすでに西鉄大牟田線が走っていた。この部分に国道3号線福岡南バイパス、九州縦貫自動車道が計画されたので、本来ここにも土塁が存在したものの否かを重点的課題の一つとして数次の調査が行われた。

調査の結果、水城土塁は築造当初より、御笠川の部分は欠堤していたこと、御笠川河床には石敷があり、水城築造時に洗堰が築かれていたこと、御笠川は当時からするとまず東に流路を変え、さらに西へ移動し現在にいたっていること等が判明した。

註 水城についての詳細は次の報告書を参照されたい。

- 1 福岡県教育委員会「水城——昭和50年度発掘調査報告——」1976
- 2 福岡県教育委員会「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告」—X X V I 1978
- 2 福岡県教育委員会「水城——昭和51.52.53年度の発掘調査概報——」1979

### 3. 第3地点

筑紫郡太宰府町大字通古賀字久保田に所在する微高地の縁辺部で、散布地としてあげられていた。

調査は昭和54年9月に実施したが、家屋が撤去された後の瓦礫が集積しており、発掘は困難をきわめると予想されたので、重機を用いてトレンチ掘を行った。地盤は花崗岩バイラン土であったが、家屋に伴う井戸その他の深い穴の他は、遺構と思われるものは何ら存在しなかった。

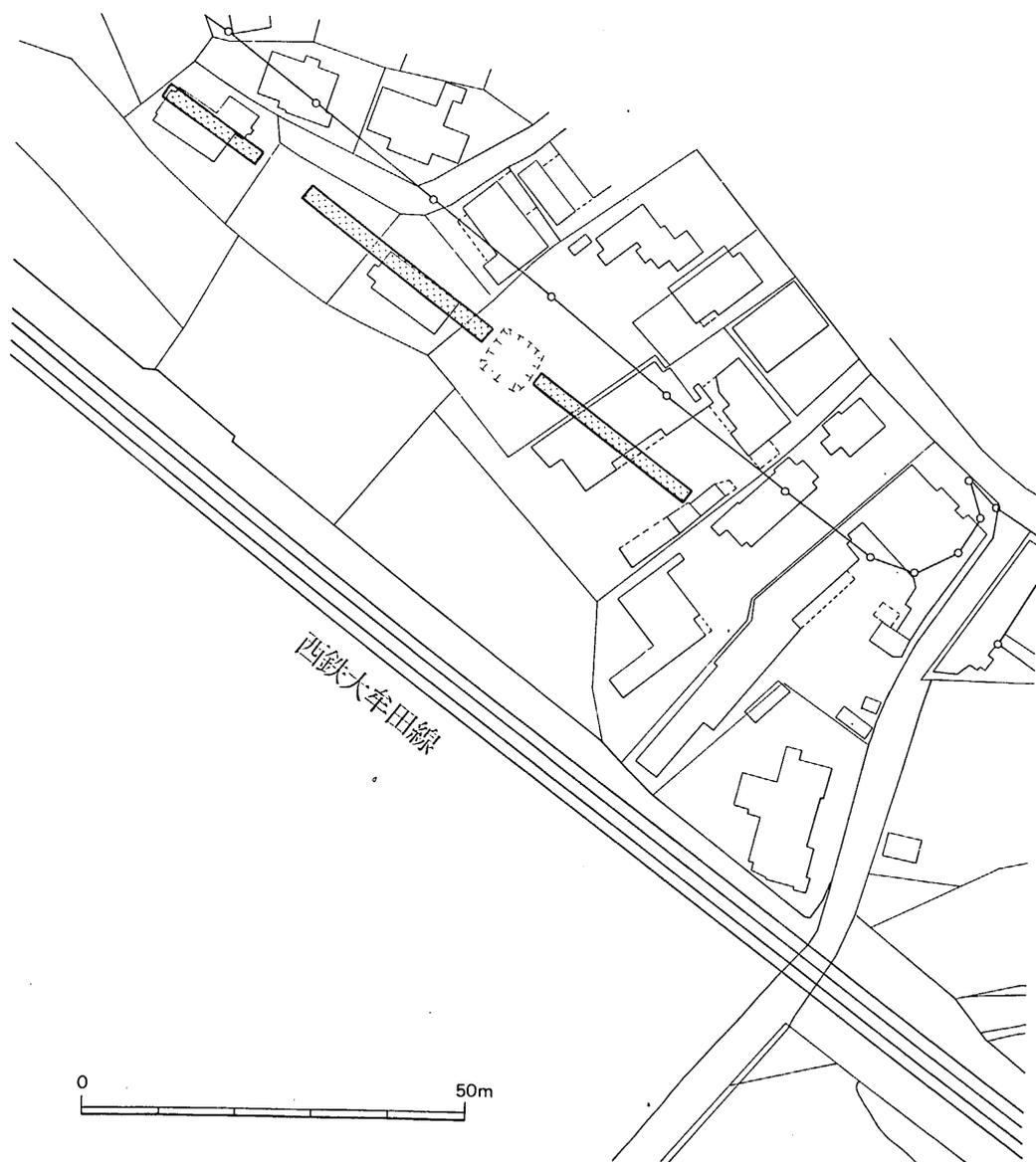
### 4. 第4地点（伝苜萱関跡）

筑紫郡太宰府町大字通古賀字関屋

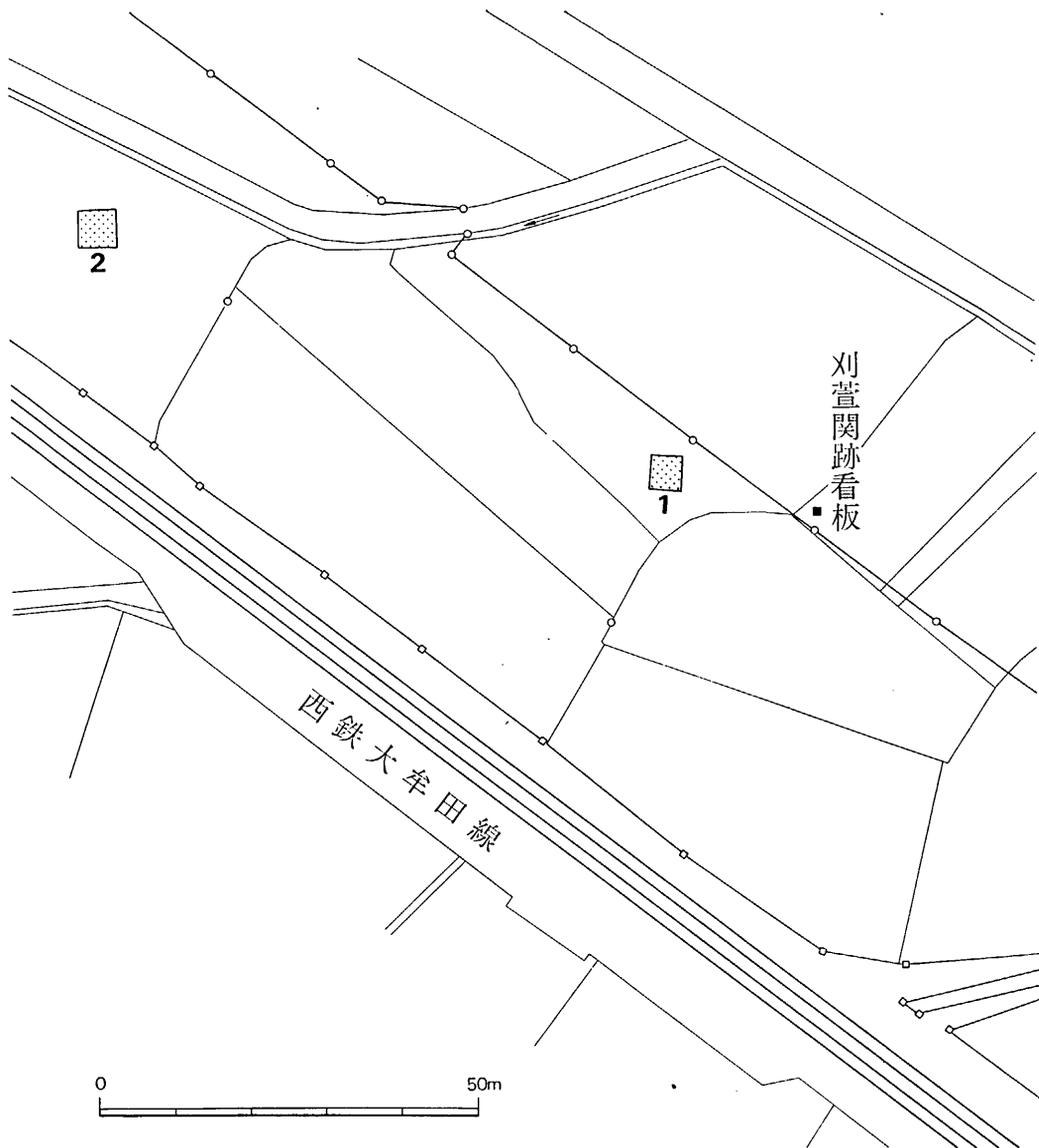
特別史跡『大宰府跡』の西方で、国道3号線と西鉄大牟田線が交差し、その間を御笠川が西流する。この御笠川北岸に「苜萱関跡」の看板が建ち、中世の関所跡とされているので、一応事前に第4地点として発掘したものである。しかし、現在の地勢からして御笠川旧河川域内であると見え5×5mのグリッドを2箇所設定した。

調査の結果、第5図に示すと通りの層序で、第2層以下14層まで砂層ないし荒砂層が河川堆

積の状態認められ、5・6層で若干自然小流路状の凹みが検出された。この間の層は、奈良～室町時代の、須恵器・土師器・磁器・瓦片の遺物包含層で、縄文時代のサヌカイト製石鏃も混在して出土するなど遺構は何ら存在しなかった。なお、先述の看板は今回の調査地点に隣接した水田に盛土して建っており、同様に旧河川域内に含まれよう。むしろ第4地点の水田面から、約2m程の比高さのある四王寺山麓西端上を、3号線が走っており、この地点に何らかの遺構の存在を考えることはできよう。



第3図 第3地点付近地形図（縮尺1/1,000）



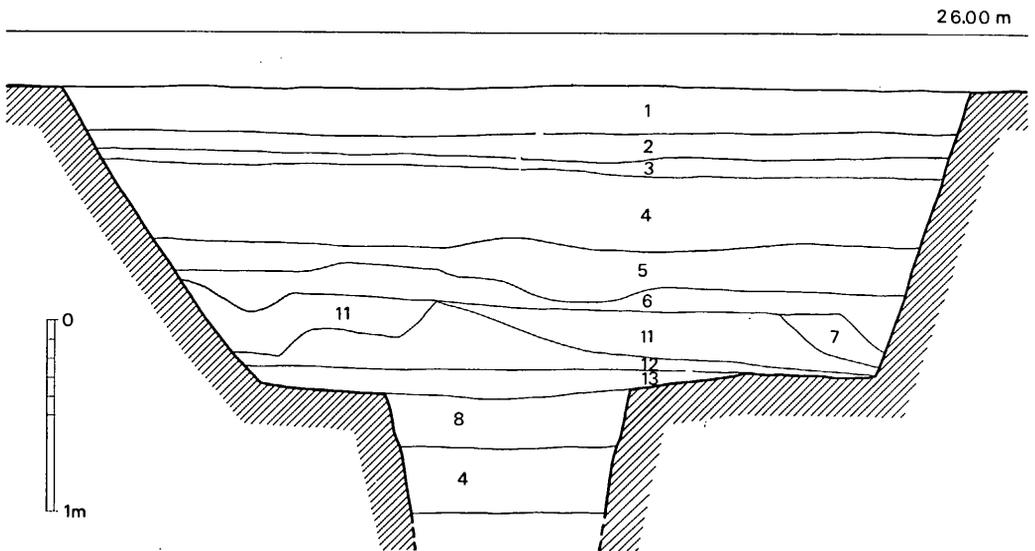
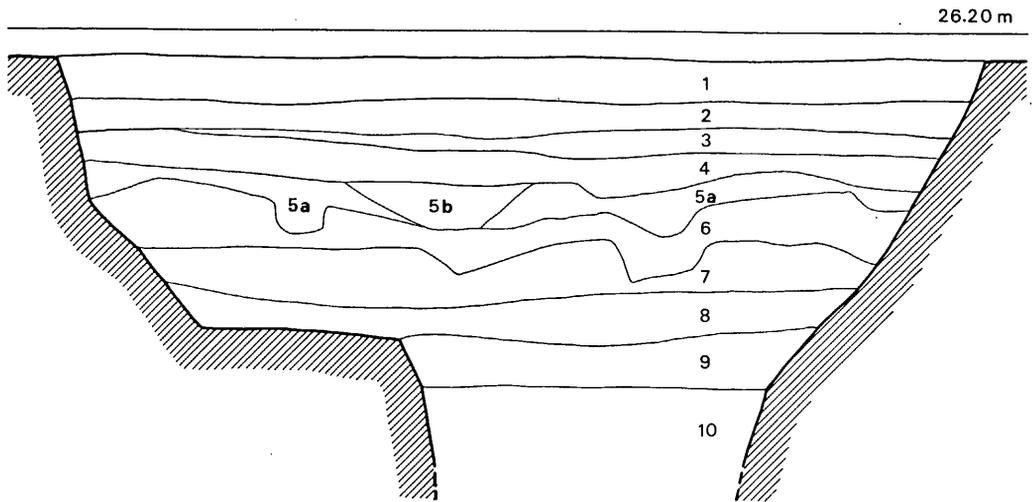
第4図 第4地点（伝刈萱関跡）付近地形図（縮尺1/1,000）

## 5. 第5地点（都府楼前条坊遺跡）

筑紫郡太宰府町大字榎寺・同観世・同通古賀

御笠川両岸地域の中で、特別史跡『大宰府跡』内で、“都府楼跡”と呼ばれている中枢部の前方（南側）一帯を第5地点として調査した。一部宅地として利用されている低丘陵を含むが、大部分は低地の水田で、御笠川両岸の旧流域と考えられた。

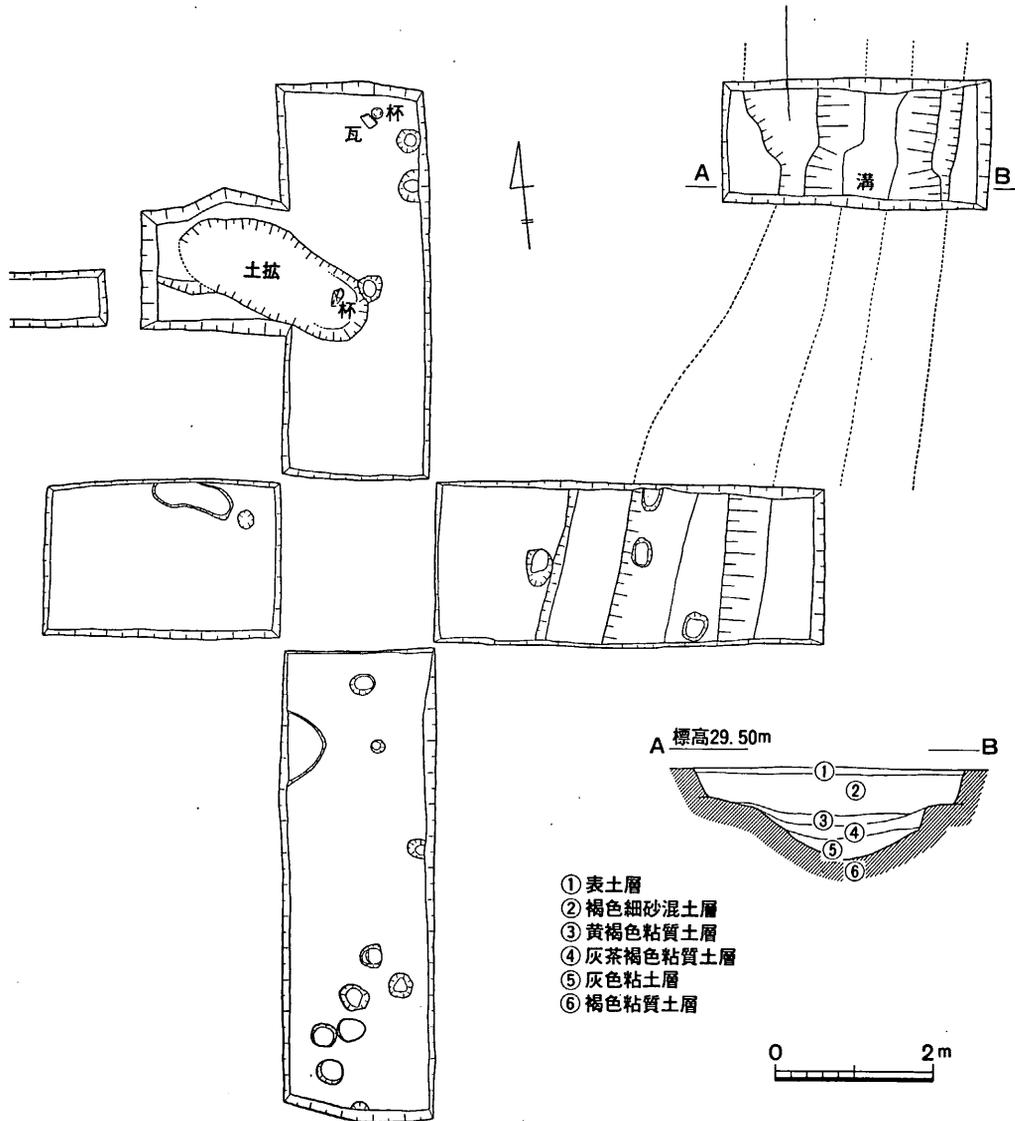
調査は、A（榎寺）、B（観世）、C・D（通古賀）地区の4箇所に分けて行なった。A地



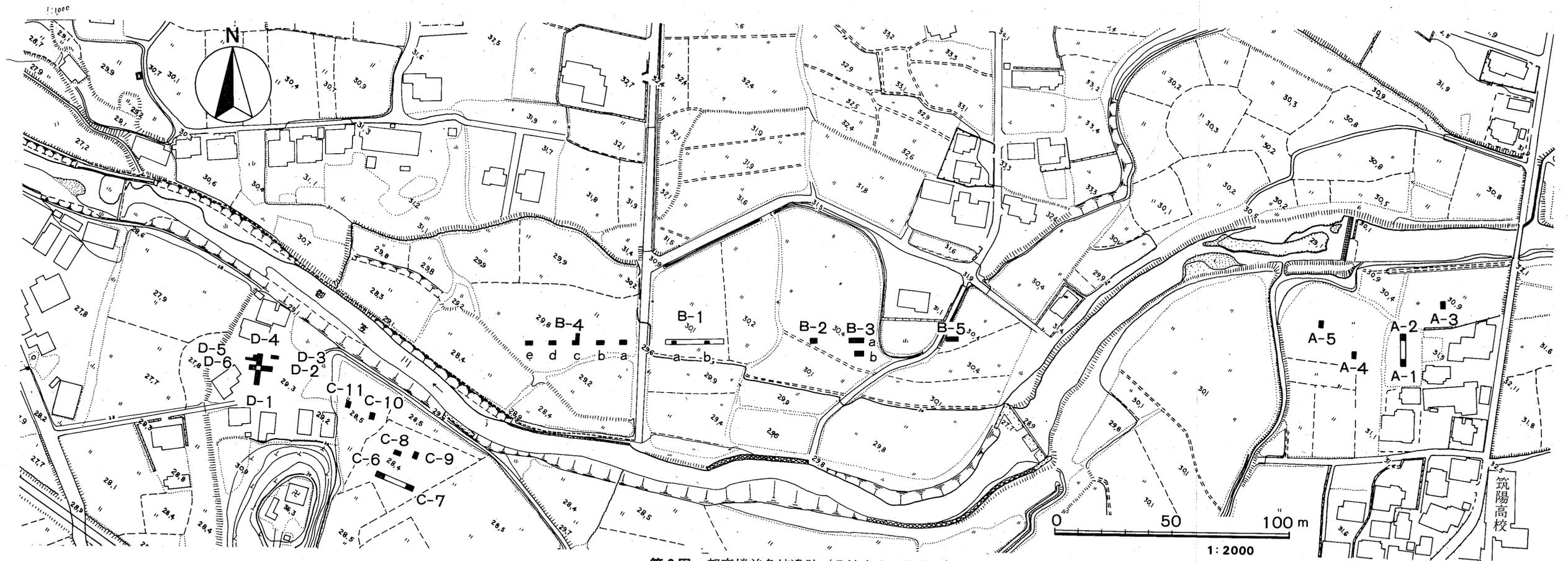
第5図 第4トレンチ層位図(縮尺1/40)

- |      |          |     |             |
|------|----------|-----|-------------|
| 1層   | 灰色細砂耕作土層 | 8層  | 茶褐色荒砂層      |
| 2層   | 黄褐色細砂層   | 9層  | 黄褐色荒砂層      |
| 3層   | 灰褐色細砂層   | 10層 | 灰褐色荒砂含灰色粘土層 |
| 4層   | 褐灰色細砂層   | 11層 | 暗灰色細砂層      |
| 5 a層 | 灰色細砂層    | 12層 | 白灰色砂利層      |
| 5 b層 | 灰褐色細砂層   | 13層 | 暗青灰色粘土層     |
| 6層   | 白褐色細砂層   | 14層 | 白色砂層        |
| 7層   | 灰白褐色荒砂層  |     |             |

区は現河床レベル（水田下約1.8m）まで下げたが遺物包含層で遺構の確認はできなかった。B地区とC地区東部も同様で、C地区西部で丘陵に続く花崗岩パイラン地山層に（同1.3m）至ったが遺構は存在しなかった。D地区で、溝状遺構と土壙が検出され、ヘラ切り底の土師器杯が若干出土し、平安時代以降の遺構と思われるが、削平が著しく、その性格は不明である。なお、他地区の遺物包含層（砂層）からは奈良期以降の須恵器・土師器・磁器・瓦片等が出土した。



第7図 D地区遺構配置図



第6図 都府楼前条坊遺跡(5地点A~D地区)全図

## 6. 第6地点（御笠川南条坊遺跡）

筑紫郡太宰府町大字太宰府

特別史跡『大宰府跡』は、鏡山猛氏によってその条坊区画線が復原され、広大な郭内は順次（註1）  
 県・九州歴史資料館の調査で明らかにされつつある。第6地点は、この郭内の南部を西流する（註2）  
 御笠川の南岸に位置するため『御笠川南条坊跡』として6次にわたる調査を実施した。

その結果、出土した遺構は第9～10図に示すとおりで、掘立柱建物7・井戸69・土塋217・  
 溝35、その他が検出された。また遺物は、第2～3表に示すように多岐にわたり、報告した各  
 種土器類だけで2565個に及んだ。

なお、このような莫大な資料は、3次以降の調査担当者の故前川威洋氏の手によって整理報  
 告された。氏は、各種遺構の良好な一括土師器を、①ヘラ切り離し底から糸切り離し底への変  
 化、②一括資料の同一器種の法量化への変化、③杯・小皿にみられるような大形から小形へ、  
 また小形から大形へのスムーズな変化をたどるということを手がかりにして、奈良～室町時代  
 （8世紀から14世紀）にかけての土師器輸入陶磁器等の編年が明らかにされた。（註3）

註(1) 鏡山 猛「大宰府都城の研究」1968年 風間書房

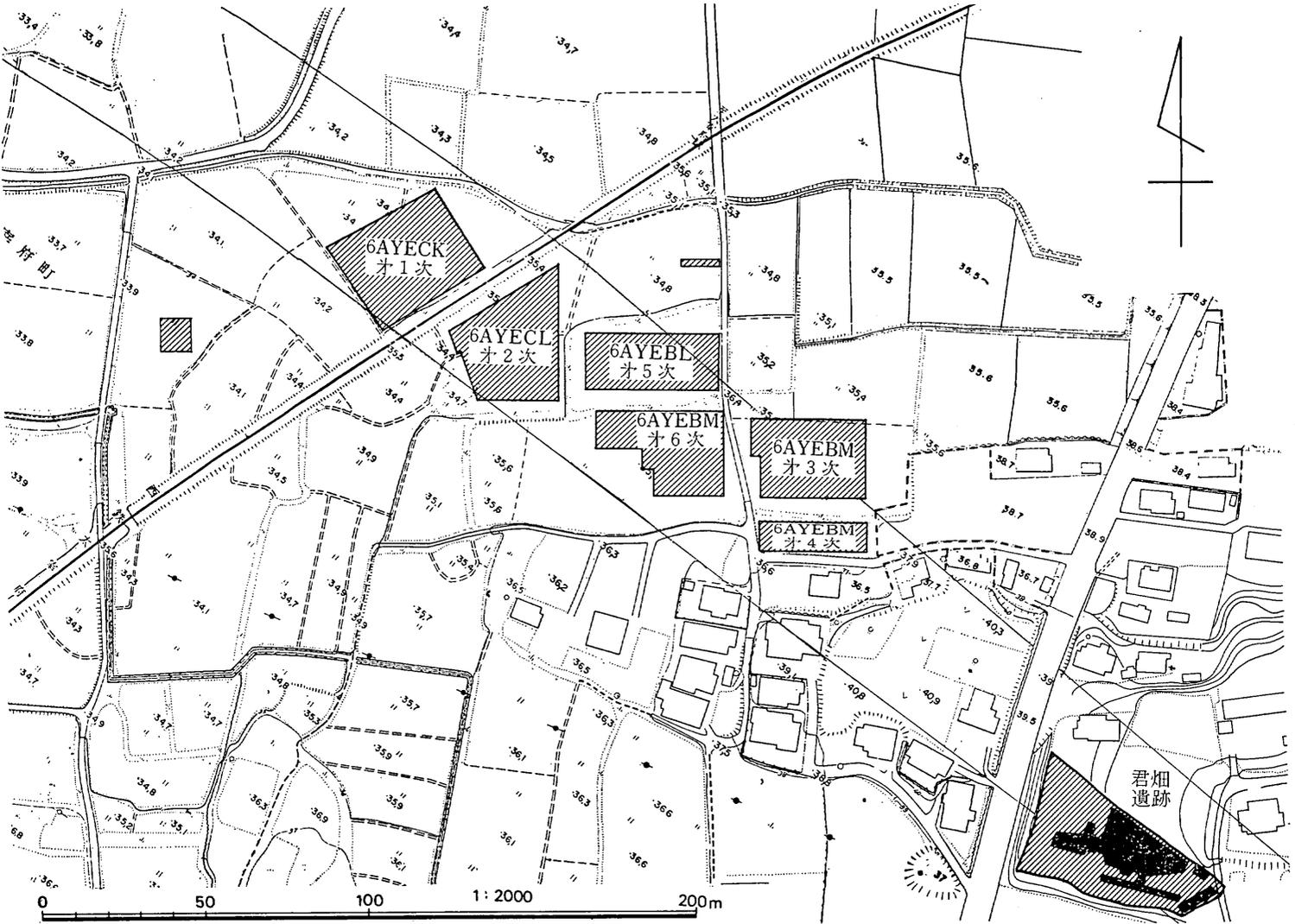
(2) 福岡県教育委員会『浦城跡』「福岡県文化財調査報告書第45集」1970年

九州歴史資料館『大宰府史跡一昭和46年度概報～51年度概報』1971～1976年

(3) 福岡県教育委員会「福岡県南バイパス関係埋蔵文化財調査報告」第8集下 1978年を参照されたい。

第2表 土 塋 一 覧 表

遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模			出 土 遺 物
				長径	短径	深さ	
SK 101	KV18・19		不整形	1.73×0.2			
” 102	KU20		円形	1.25×(1.13)×0.1			
” 103	KV20		楕円形	2.03×(1.47)×0.45			
” 104	KW19		不整形	1.8	1.1	×0.16	磁器7類, 陶器1類, 片口
” 105	KW19	P-55	不整形	2.88	×0.1		土師器, 磁器7類, 土鍋, 石鍋 有孔円形板
” 106	KT21		円形	1.71 × 0.4			
” 107	KW21		楕円形	3.28	1.29	×0.14	土師器, 磁器7類, 陶器1・3類, 土鍋, 石鍋, 片口, とりべ, 土製菊花文押型
” 108	KW・KX21		隅丸 長方形	4.02×(0.75)×0.2			土師器, 須恵器, 磁器3・7・9類, 陶器1類, 土鍋
” 109	KW・KX21		隅丸 長方形	1.88×1.11×0.08			
” 110	KT18		円形	1.24×1.15×0.1			
” 111	KP22		円形	1.2 × 0.16			下駄



第8図 第6・6'地点地形図(縮尺図1/2,000)





遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模			出 土 遺 物
				長径	短径	深さ	
S K 112	K P 22		円 形	1.06 × 0.23			板材, 曲物
" 113	K V ・ W 20	P-54	長 方 形 (?)				土師器, 須惠器, 磁器 6・7・9類, 陶器 1・3・11類, 土鍋, 石鍋, 輪羽口
" 114	K X 20	P-56	円形(?)				土師器, 須惠器, 磁器 6・7類, 陶器 1・7・8・10・11類, 瓦質椀, 内黒土器
" 201	L L 41	土 壙	方 形	0.95×0.7 ×			土師器Ⅱ-3類, 磁器 7 C類, 陶器 1・8 ・11類, 片口, 砥石, 板材片, 炭
" 202	L N ・ L O 41	長 方 形 土 壙	長 方 形	2.4 × 1.8 × 0.5			土師器Ⅱ-1~2類, 磁器 7・7B・7C・ 9類, 石鍋, 土鍋, 片口, 砥石, 有孔 滑石板, 漆器
" 203	L P 41・42	長 方 形 土 壙	長 方 形	2 × 0.4			土師器, 須惠器, 磁器 6類, 陶器(叩き褐 緑釉), 片口, 土鍋
" 204	L Q 41・42	長 方 形 土 壙	長 方 形	1.3 × 0.23			土師器, 陶器 7 A・7 C類, 陶器 3・10類 片口, 瓦質椀, 砥石
" 205	L P 38	円形 土 壙	円 形	1.13×1.05×0.1			瓦質椀
" 206	L R 35	円形 土 壙	円 形	0.94×0.71×0.2			土師器, 須惠器, 磁器 9類, 陶器 3類 石鍋, 土鍋, 瓦
" 207	L R 34	円形 土 壙	円 形	1 × 1.04×0.1			須惠器(甕), 土鍋, 片口, 瓦
" 208	L Q 34	長方形 土 壙	長 方 形	2.3 × 0.51×0.17			土師器, 須惠器, 磁器 7・7A・7B・9 類, 土鍋, 砥石, 瓦玉, 鉄釘, 瓦
" 209	L T 42	円形 土 壙	円 形	0.75×0.2			須惠器, 磁器 7・7B・7C類, 陶器 10・ 11類, 内黒土器, 瓦
" 210	L T 42	円形 土 壙	方 形	1.2 × 1.05×0.2			土師器, 磁器 7 C類, 陶器 1・3類, 瓦
" 211	L T ・ L U 42	土 壙	長 方 形	1.21×0.96×0.1			土師器Ⅱ-1~2類, 磁器 7A・7B・8・9類 陶器 7・11類, (青白磁瓶把手), 瓦玉, 瓦
" 212	L T ・ L U 39・40	焼土 土 壙	不 整 形	5.35×2.65×0.3			土師器Ⅱ-2類, 須惠器, 磁器 1・6・7A・7B ・7C類, 陶器 7・11類, 片口, 瓦質甕, 石鍋, 甕, 鉄釘, 鉄釘
" 213	L S ・ L T 37		円 形	1.93 × 0.3			
" 214	L W 42		円 形	2 × 0.15			
" 215	L V ・ L W 40	土 壙	不 整 形	2.5 × 2.1 × 0.25			土師器, 土鍋, 瓦質甕, 瓦, 鉄釘, 焼土
" 216	L V ・ L W 39・40	方 形 土 壙	長 方 形	2.48×1.52×0.4			土師器, 須惠器, 片口, 瓦玉, 鉄釘, 刀子, 焼土, 炭
" 217	L W ・ L X 39・40	土 壙	不 整 形	2.33×1.56×0.3			
" 218	L X 40		不 整 形	1.9 × 0.2			
" 219	L X 40・41	土 壙	長 方 形	3.1 × 2.2 × 0.3			土師器Ⅱ-2~3類, 須惠器, 磁器 1・6b・7・7A ・7B・9類, 陶器 7類, 瓦質椀, 石鍋, 鋳冶関係
" 220	L X 41	円形 土 壙	円 形	1.55×1.4 × 0.6			土師器Ⅱ-2~3類, 須惠器, 磁器 3・5・7・7A・ 7B・7C類, 陶器 3・7類, 土鍋, 片口, 曲物, 箸
" 221	L Y 39・40	土 壙	長 方 形	3.45×0.95×0.15			土師器, 須惠器, 磁器 4・7・11類, 片口
" 222	L Y 38	土 壙	不 整 形	1.25×0.3			土師器, 須惠器, 磁器 7・12類
" 223	L V 36	土 壙	不 整 形	1.05×0.7 × 0.06			土師器, 瓦, 鋳型
" 224	L W 35		不 整 形	1.91×1.0 × 0.1			
" 225	L W 35		長 方 形	1.15×1.1 × 0.1			
" 226	L W ・ L X 34・35		長 方 形	2.33×1.4 × 0.2			
" 227	L X 37		長 方 形	1.05×0.65×0.3			
" 228	L X 36	土 壙	方 形	1.65×1.55×0.2			土師器, 須惠器, 磁器 9類, 陶器 3類, 石鍋, 砥石, とりへ

遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模		出 土 遺 物	
				長径	短径 深さ		
S K 229	L X 35		方 形	0.7	×0.61×0.2		
" 230	L U 41	長方形土壙	長方形	0.7	×0.3	土師器Ⅱ-2新類, 須惠器, 磁器7類, 陶器10類, 片口	
" 231	L V 41	方形土壙	長方形	(1.8)×(1.25)	×0.35	土師器Ⅱ-2類, 須惠器, 磁器7A, 陶器3・7・8・11類, 片口, 瓦, 硯, 燒土	
" 232	L U 40・41	長方形土壙	長方形	(4.5)×1.25	×0.4	土師器Ⅱ-2類, 須惠器, 磁器6b・7B・7C・9・11類, 陶器10・11類, 瓦質碗, 片口, 石鍋, 鋳型	
" 233	V 41燒土落込中L V 40・41	長方形土壙	長方形	(4)×1.82	×0.45	土師器, 磁器3・7A・7B・7C・9b類, 陶器1・3・8・11類, 片口, 土鍋, 瓦質碗, 支脚, 鋳鏝	
" 234	L V 39・40	長方形土壙	長方形	(4.7)×1.4	×0.3	土師器, 須惠器, 磁器7・7B・7C・9類, 陶器3・8・10類, 常滑, 片口, 支脚, とりべ, 瓦	
" 235	L U 39・40	隅丸方形土壙	長方形	2.1	×0.4	土師器, 須惠器, 磁器3・7A・7B・9類, 陶器3・8・10類, 片口, 瓦質甕, 碗	
" 236	L U 39	円形土壙	不整形	1.4	×1.3	×0.5	土師器, 磁器7B類, 瓦質甕, 片口, 瓦
" 237	L U・L V 36・37	隅丸方形土壙	不整形	2.9	×0.2	土師器, 須惠器, 磁器4・7・9類, 瓦質碗, 黑色土器, 土鍋瓦	
" 238	L V・L W 36・37	円形土壙	不整形		0.2	土師器Ⅱ-3類, 須惠器甕, 磁器6・7・9類, 陶器1・3類, 瓦質碗, フイゴ羽口, 鋳型, 石鍋, 土鍋, 片口	
" 239	L V 35	土壙	円形	1.9	×0.2	土師器Ⅱ-4類, 須惠器甕, 磁器6・7・8類, 陶器1・3・7・10類, 猿投(?), 瓦玉, 土鍋	
" 240	L V 34	土壙	不整形		0.3	土師器, 須惠器甕, 磁器9・10類土鍋, 埴	
" 301	MM 26	P-1	長円形	0.8	×0.63	×0.25	土師器Ⅱ-4類, 磁器7類, 雑器7類, 瓦, とりべ
" 302	MM 28		不整形	4.1	×3.8	×0.1	土師器Ⅱ-1類, 磁器7C・9類, 雑器1類, 瓦, 支脚
" 303	ML 26	P-3	不整形	2.03	×(1.7)	×0.12	
" 304	MM 27	P-5 不整形	不整形	1.5	×1.12	×0.47	土師器Ⅱ-3類, 磁器6・7C・8・9類, 砥石, 片口
" 305	MK 26・27	P-5	円形	1.59	×1.4	×0.13	土師器Ⅱ-4類, 磁器7C類, 瓦
" 306	MH 25		長方形	3.06	×0.56	×0.1	
" 307	MH 25	円形土壙	楕円形	1.63	×1.2	×0.11	土師器Ⅰ・Ⅱ類, 磁器4・7A・7C類, 瓦
" 308	MF 28	M H 28土壙	長方形	2.84	×1.11	×0.58	土師器Ⅱ類, とりべ
" 309	M J 28	長方形土壙	長方形	2.41	×1.03	×0.26	土師器Ⅱ-4類, 磁器3・6・7C・8類, 緑釉, 雑器1・7・12類, 片口, 滑石製品
" 310	MK 28		円形	1.19	×1.02	×0.2	
" 311	M J 29	長方形土壙	楕円形	1.37	×0.78	×0.3	土師器Ⅱ-4類, 磁器6・7・7C・8類, 雑器7類, 瓦, 滑石製品
" 312	ML 30	長方形土壙	長方形	2.47	×1.28	×0.56	土師器Ⅱ-1類, 磁器3・5・9類, 雑器1・7・8類, 瓦, 石鍋, 鋳鏝, 滑石製品
" 313	MM 28	P-6	長方形	1.06	×0.7	×0.24	
" 314	MM 30	P-4	楕円形	1.92	×1.15	×0.22	土師器Ⅱ-4類, 須惠器
" 315	MM 30	P-5	円形	1.65	×(1.5)	×0.2	土師器Ⅱ-3類, 須惠器, 磁器, 3・7C・8類, 雑器1・7類, 片口, とりべ
" 316	MM 32	P-1	楕円形	1.6	×1.05	×0.58	土師器Ⅱ-3類, 石鍋, 片口
" 317	ML 32	長方形土壙	楕円形	2.08	×1.75	×0.5	土師器Ⅱ-2・3類, 磁器3・7・8・9類, 雑器1・7・8・12類, 滑石製品, 片口, 鉄鏝, 銅切りくず
" 318	ML 32	方形土壙	隅丸方形	1.31	×(1.3)	×0.17	土師器Ⅱ-1・3類, 磁器5・9類, 鉄製品, 銅板, 銅製品, 砥石, 片口
" 319	ML 32	P-1	楕円形	1.5	×1.16	×0.18	土師器Ⅱ-2・3・4類, 常滑, とりべ, 瓦, 鋳鏝

遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模			出 土 遺 物
				長径	短径	深さ	
S K 320	M K 31		隅丸方形	1.54	1.44	0.63	土師器Ⅱ類, 磁器3類, 雑器7・12類
” 321	M J 31			0.57	0.17		土師器Ⅱ類, 須恵器, 雑器7類, 常滑
” 322	M I 31・32	円形壙	不整形	2.32	0.1		土師器Ⅱ-1類, 磁器8・9類, 常滑, 片口, とりべ, 滑石製品
” 323	M H 32	長方形壙	長方形	3.11	0.76	0.29	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器1・6類瓦, 常滑
” 324	M H 32	長方形壙	長方形	1.4	0.56	0.2	土師器Ⅱ類
” 325	M L 33	長方形壙	長方形	1.61	0.85	0.28	土師器Ⅱ-2類, 須恵器, 土鍋, 常滑, とりべ, 石鍋, ふいご羽口
” 326	M M 33	P-1 長方形壙	長方形	2.45	(1.5)	0.49	土師器Ⅰ-2・Ⅱ-3類, 磁器1類, 瓦, 常滑
” 327	M M 34	P-4 円形壙	円形	0.94	0.83	0.17	土師器Ⅰ-2類
” 328	M M 35・36		不整形			0.11	
” 329	M M 35	P-1	楕円形	1.38	0.98	0.21	土師器Ⅰ-2・Ⅱ類, 須恵器, 瓦
” 330	M L 34	P-1	楕円形	1.54	1.28	0.27	土師器Ⅱ-2類, 磁器5類, 雑器7類, 瓦
” 331	M L 35	方形壙	方形	1.66	1.49	0.18	
” 332	M F 29・30		長方形	2.96		0.24	土師器Ⅱ-3類, 雑器, とりべ
” 333	M F 33		長方形	1.78	0.98	0.1	土師器Ⅱ-5類, 磁器6・9類, 須恵器, とりべ, ガラス小玉, 片口
” 334	M J 25		不整円形	0.85	0.64	0.15	土師器Ⅱ類, 須恵器, 瓦
” 335	M M 27	長方形壙	長方形	0.81	0.56	0.27	土師器Ⅰ-4類, 須恵器, 瓦
” 336	M K 27・28	落ち込み	楕円形	2.62	(2.0)	0.09	土師器Ⅰ-2類, 須恵器, 文字瓦, 砥石, 土鍋
” 337	M L 28	円形壙	不整形	0.87	0.76	0.12	土師器Ⅰ-2類, 須恵器, 鉄片
” 338	M K 30	円形壙	円形	0.87	(0.85)	0.17	土師器Ⅱ-1類, 磁器1・4類, 鉄鏝, 帯鉤, 銅板切りくず, 石鍋
” 339	M I・M J 28・29	落ち込み	不整形	1.8 + α	1.95	0.4	土師器Ⅰ-2類, 磁器1・3・4類, 緑釉, 須恵器, 文字瓦
” 340	M G 26・27	落ち込み	不整形	3.2		0.25	土師器Ⅰ-2, Ⅱ-1・3類, 磁器7 D類, 瓦, 須恵器
” 341	M G 28・29	落ち込み		1.93		0.16	土師器Ⅰ-2類, 磁器4・7・7 C類, 雑器7・8類, 須恵器, 瓦, 片口
” 342	M L 33		不整形 三角形	1.1	0.96	0.34	土師器Ⅰ類, 須恵器, 瓦
” 343	M M 33・34	落ち込み	円形?	2.3		0.31	
” 344	M L 34	P-5	円形	1.5	1.1	0.24	土師器Ⅰ・Ⅱ類, 雑器7類, 片口
” 345	M J 36	P-7	不整形	1.5	1.17	0.2	長頸土師器壺, 瓦
” 346	M H 31	P-2	長方形?	1.0 + α	1.1	0.22	土師器Ⅰ類, 須恵器, 雑器
” 347	M H 32		長円形	1.01	0.75	0.22	土師器Ⅱ類, 磁器1・7 C類, 土鍋
” 348	M H 31	P-1	円形	1.1	1.05	0.19	土師器Ⅰ-2類, 瓦
” 349	M H 34	土壙	不整形	1.96	0.74	0.29	土師器Ⅰ-2類, 須恵器, 瓦
” 350	M H 34		長円形?	1.83	1.3 + α	0.19	
” 351	M H 35	円形壙	円形	1.37	1.23	0.21	土師器Ⅰ-2・(Ⅰ-4)類, 磁器1類

遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模		出 土 遺 物
				長径	短径 深さ	
S K 352	M F 33・34	Npit		4.3	×0.1	土師器Ⅰ-2・Ⅱ類, 磁器1類, 須恵器, 瓦
” 353	M F 34	Spit	不整形		0.5	土師器Ⅰ-2類, 磁器1類, 須恵器, 片口, 瓦, 雑器
” 354	M L 31	P-3	円形	1.62	×0.22	土師器(Ⅰ-1)Ⅰ-2類, 磁器1類, 緑釉, 石鍋, 瓦, 須恵器
” 355	M F 27~30				0.18	土師器Ⅱ-1類, 須恵器, 瓦, 磁器1・3類
” 401	M P 26	P-11	方形?	$0.95+\alpha\times 0.75+$ $\alpha\times 0.06$		土師器Ⅱ類, 磁器5・6・7 C類, 片口, 鉄片
” 402	M P 27	P-1		1.31×0.8+α×0.06		
” 403	M Q 26・27	P-2	不整形	1.23	×0.94×0.06	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 雑器7類, 須恵器
” 404	M Q 28	P-3	方形	0.9	×0.75×0.06	土師器Ⅱ-4類, 鉄片
” 405	M Q 28	P-5	不整形	0.73	×0.56×0.15	土師器Ⅱ-4類, 磁器4・6・7 C類, 鉄刀子, 須恵器
” 406	M P 28	P-5	円形	1.11	×0.92×0.38	土師器Ⅱ類, 磁器7 C・9類, 雑器1類, 須恵器, 鉄片, 銅滓, 土鍋
” 407	M Q 27	P-6	長方形	4.18	×1.09×0.23	土師器Ⅱ-3類, 磁器3・5・7 A・7 C・9類, 雑器6・7類, 片口, 須恵器, 瓦, 鉄片
” 408	M Q 28	P-7	長円形	1.18	×0.86×0.15	土師器Ⅱ類, 須恵器, 瓦
” 409	M R 29	P-2	長方形	0.82	×0.62×0.36	
” 410	M Q・R 30	P-7	長方形	3.2	×1.44×0.23	土師器Ⅱ-3類, 磁器3・5・6・7 A・7 C・9・10類, 雑器6・7・8類, 常滑, 石鍋, 石製品
” 411	M R 31	P-9	長方形	1.25	×0.56×0.44	土師器Ⅱ類, 磁器, 雑器1・6類, 須恵器, 支脚
” 412	M R 30・31	P-11	長方形?	2.14	×0.08	土師器Ⅱ-3類, 磁器9類, 須恵器, とりべ, 滑石製品
” 413	M P 31	P-13	長方形?	1.68	×0.3	土師器Ⅱ-2類, 雑器1類, 滑石製品, 片口, とりべ
” 414	M P 31	P-10	長方形	1.72	×0.71×0.12	土師器Ⅱ-3類, 磁器3・5・7 A・9類, 須恵器, 雑器
” 415	M P・Q 31	P-17	隅丸方形	1.9	×1.8×0.12	土師器Ⅱ-3類, 雑器1類
” 416	M R 30・31	P-8	不整形	1.75	×0.17	土師器Ⅱ-2類, 磁器9類, 常滑, 瓦, 支脚, 輝緑凝灰岩
” 417	M P 32	P-16		1.5	×0.06	土師器Ⅱ類, 磁器7 B類, 雑器6類, 瓦, 須恵器
” 418	M P 32・33	P-15	長方形	2.6	×0.5+α×0.27	土師器Ⅱ-2類, 磁器3・9類, 雑器1・8類, 常滑, とりべ, 須恵器
” 419	M Q・R 31・32	P-6	不整形	1.6	×0.88×0.2	土師器Ⅱ-1・2類
” 420	M Q 33	P-2	不整形	1.32	×0.84×0.1	土師器Ⅱ-2類, とりべ
” 421	M R 33	P-12	長方形	1.25	×0.84×0.13	土師器Ⅱ-2または3類, 雑器2類, 須恵器, 瓦, とりべ
” 422	M P 34	P-18	不整形	1.95	×0.96×0.14	土師器Ⅰ・Ⅱ類, 磁器7 C類, 須恵器, とりべ
” 423	M P 35	P-20	円形	1.3	×1.15×0.43	
” 424	M P 36	P-19	長方形	0.82+α×0.91×0.17		土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 白磁
” 425	M Q 27・28	P-1	円形	2.77	×0.09	土師器Ⅱ-1・Ⅰ類, 磁器1・3類, 鉄クス, 雑器1類, 石鍋, 鉄滓, 銅滓, とりべ, ふいご羽口
” 426	M Q 29	P-3		0.96	×0.1	土師器Ⅱ類, 須恵器, 瓦

遺構番号	地区	旧番号	平面形態	規模			出土遺物
				長径	短径	深さ	
SK 427	MR28	P-8	不整形	2.9 × (2.2) × 0.3			土師器Ⅰ-3・Ⅱ類, 磁器3・5類, 片口, 瓦器椀, 石鍋, ガラス製小玉, 鉄片
" 428	MQ34	円形壙	円形	1.5 × 1.5 × 0.23			土師器Ⅱ-2・3類, 磁器6類, 土鍋, 鉄片, 常滑
" 501	LB 4・5	1		2.35 × 1.7 × 37			土師器(Ⅱ-4類)多量, 青磁, 箸履物状木製品, 小型曲物底板, その他木製品
" 502	LB 3	2		0.82 × 25			漆片(木葉模様)
" 503	LE 6	3		1.58 × 1.08 × 21			土師器(Ⅱ-2類)須恵器, 白磁, 青磁, 陶器
" 504	LD 6	4		1.92 × 1.0 × 14.5			土師器(糸切り), 青磁, 白磁(四耳壺), 陶器, 片口
" 505	LD 6	5		4.0 × 3.42 × 24			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 青白磁, 片口(須恵), 須恵器杯
" 506	LD 4	6		3.16 × 2.86 × 15			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 陶器, 青白磁, 滑石製品, 石鍋, 片口(須恵)
" 507	LE 4	7		1.0 × 0.7 × 17			土師器(糸切り), 須恵器杯, 石鍋
" 508	LD 2	8		2.7 + α × 18			土師器, 須恵器, 青磁, 白磁(四耳壺), 石鍋片
		9					SK513と同一
" 510	LE 4	10		1.9 × 1.1 × 10			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 陶器, 片口(須恵), 瓦器, 摺鉢
" 511	LE 4	11		1.4 × 1.06 × 20			陶器, 鉢, 滓
SE 516	LE 7	12		75			
SK 513	LC 5	13		1.58 × 1.29 × 16			土師器(Ⅱ-4類)青磁, 陶器, 片口, 土製品
" 514	LC 6	14		2.8 × 2.6 × 72			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 陶器, 片口(須恵), 下部より獣骨
" 515	LD 4	15		1.5 × ? × 20			
		16					不明
" 517	LD 6	17		2.13 × 1.0 × 17			土師器, 青磁
" 518	LD 6	18		1.13 × 1.09 × 20			
" 519	LC 7	19		1.76 × 1.22 × 16			
" 520	LD 7	20		2.11 × 0.8 × 23			土師器(Ⅱ-2類), るつば, 甕, 杯, 瓦器椀, 青磁, 白磁, 陶器
	LB 6	21					SE517 井戸
	LB 7	22					SE508 井戸
	LD 7	23					SE506 井戸
" 524	LD 8	24		1.55 × 0.64 × 18			土師器(糸切り), 土師甕, 須恵器, 青磁
	LB 8	25					SE509 井戸
" 526	LB 7	26		0.98 × 0.7 × 10			
" 527	LC 3	27		1.26 × ? × 24			土師器(高台付), 青磁, 片口(須恵)
		28					欠番
" 529	LB 11	29		2.53 × 1.73 × 15			土師器(糸切り, ヘラ切り), 須恵器, 青磁, 片口, 黒色土器
" 530	LC 11	30		2.38 × 1.3 × 20			土師器, 土鍋(口縁に縄目), 須恵器, 青磁陶器

遺構番号	地 区	旧番号	平面形態	規 模			出 土 遺 物
				長径	短径	深さ	
	LD10	31					SE514 井戸
SK 532	LB12	32		2.27×1.27×28			土師器(へら切り, 糸切り)青磁, 瓦
" 533	LF10	33		2.7 × 2.5 × 20			土師器(糸切り), 青磁, 青白磁
" 534	LB10	34		1.94×? ×50			土師器(糸切り, へら切り), 白磁, 黒色土器, 瓦
" 535	LB11・12	35		4.15×0.76×10			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 黒色土器
" 536	LB12	36		1.47×? ×38			土師器(糸切り), 片口(須恵)
" 537	LD 9	37		1.79×? ×71			
" 538	LE 9	38		1.71×? ×9			土師器Ⅱ-3類, 須恵胸部, 青磁, 白磁 (四耳壺), 陶器, 銅製品, 石鍋, 瓦器
" 539	LB12	39		0.98×0.63×21			土師器(糸切り), 須恵, 白磁
" 540	LC 9	40		1.04×0.88×19			土師器(糸切り), 青磁, 片口(須恵)
" 541	LC10	41		0.87×0.7 ×22			石鍋, 片口(須恵)
" 542	LB 9	42		1.46×0.75×24			
" 543	LB 9	43		0.96×0.78×38			土師器(糸切り), 青磁, 白磁, 片口(須恵), 焼土, 木炭
" 544	LC 9	44		0.7 ×0.69×23			土師器(糸切り), 青磁
" 545	LD10	45		1.69×1.3 ×38			土師器(糸切り), 須恵, 青磁, 瓦
" 546	LC 3	46		2.2 ×? ×50			土師器甕, 須恵器壺, 瓦
" 601	MF11	P-65	方 形	2.81	0.31		土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器6・8, 12類雑器 11類 片口
" 602	"	P-64	長方形	2.50	0.85	0.5	土師器Ⅱ-4類磁器8・7C類, 雑器1・7・10 類, 緑釉片
" 603	MG10	P-61	方 形	1.13	1.07	0.41	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器7・12類, 雑器, 石ナベ, 瓦, 片口
" 604	"	P-60	不整形	1.27	0.18		土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器3・4・7・9・ 12類, 片口, 瓦
" 605	MG11	P-59	方 形	1.24	1.24	0.23	土師器Ⅱ類
" 606	"	P-63	長方形	3.0 +α	2.2	0.24	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器1・5・6・7・ 7A・7C・9類, 雑器, 内黒土器7・10類, 石鍋, 片口, 瓦
" 607	MH11	P-66	方 形	1.36	1.25	0.08	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器6・7・9類片口
" 608	MH12	P-67	楕円形	1.97	(1.5)	0.14	土師器Ⅱ-4類, 須恵器6・7・7C・9類 合子, 雑器1・1か2・10類, 青白磁, 片口
" 609	MF13	P-73	"	(1.8)	1.45	0.2	土師器Ⅱ 3か4類
" 610	MF14	P-72	"	2.3	1.35	0.28	土師器Ⅱ類, 磁器12類, 雑器3類
" 611	MG12	P-68	方 形	2.1	1.4+α	0.16	土師器Ⅱ-3類, 磁器1・7類, 雑器2・11類, 片口
" 612	MH13	P-70- <sub>2</sub>				0.13	土師器, Ⅱ-1類, 須恵器, 雑器1類, 滑石
" 613	MH14	P-70- <sub>3</sub>	方 形	1.65+α	1.5	0.21	土師器Ⅱ 3か4類, 須恵器, 磁器3・4・8 類, 瓦
" 614	"	P-70	隅丸方形	(2.4)	2.1	0.19	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器1・12類, 雑器 1・3類, 瓦, 片口
" 615	MH13	P-74		消 滅			土師器Ⅱ-1類

遺構番号	地区	旧番号	平面形態	規模			出土遺物
				長径	短径	深さ	
S K 616	MG15	P-46	長方形	(1.3)	0.85		土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器6・C・7C・9類, 雑器1・7類, 青白磁, 合子, 砥石, 片口
" 617	MH15	P-44	不整形			0.14	土師器Ⅱ-2類 雑器9類
" 618	MI15	P-42	長方形			0.10	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器3・4・6・7B・8・9類, 雑器, 1類, 瓦器椀, 黑色土器, 瓦器質ナベ
" 619	MI16	P-43	"	1.97	1.05	0.16	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 雑器1・11類, 石鍋
" 620	MI15	P-4	方形	(1.13)	1.09	0.2	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器7A類, 雑器1類, 石鍋, 瓦, 片口, 瓦器椀
" 621	MF18	P-49	長方形	2.5+ $\alpha$	2.6	0.31	土師器Ⅱ-5類, 須恵器, 磁器3・7A・7C類, 雑器1・7・11類, 瓦・砥石, 片口
" 622	MI18	P-51	"	1.8	1.3	0.38	土師器Ⅱ-3類, 磁器8類
" 623	MI14	P-9	楕円形	(1.6)	1.15	0.22	土師器Ⅱ類, 磁器5・9類, 雑器7・11類, 片口
" 624	MI15	P-5	長方形	1.13	0.71	0.22	土師器Ⅱ-4類
" 625	MJ16	P-19	楕円形	1.03	0.97	0.19	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器3・7A・7C類, 雑器1・10・11類, 土鍋, 片口
" 626	MK16	P-10	"	2.0+ $\alpha$	1.6	0.58	土師器Ⅱ類
" 627	MJ21	P-54	円形	1.4	1.25	0.25	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器4・6類, 雑器3類, 常滑, 瓦, 片口
" 628	MM16	P-15	楕円形	2.85	1.8	0.7	土師器Ⅱ-1類, 須恵器, 磁器4・(7)類, 雑器10・11類, (常滑), 鉄鏝, 瓦器椀, 黑色土器
" 629	ML19	P-33	長方形	1.4	1.0	0.25	土師器Ⅱ-3類, 磁器1類
" 630	ML19	P-32	円形	1.15	1.13	0.49	土師器Ⅱ-2類, 磁器9類
" 631	ML20	P-31	長方形	(2.8)	1.7	0.33	土師器Ⅱ-2類, 須恵器, 磁器7A・7B類, 雑器3類, 常滑, 石鍋, 瓦
" 632	MM20	P-30	楕円形	1.22	0.94	0.43	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器7A・7C類, 合子, 瓦
" 633	ME・F19	P-48	長方形	(4.64)	2.2+ $\alpha$	0.35	土師器Ⅰ-2B類, 須恵器, 磁器1類, 雑器3・10類, 瓦, 石鍋, 片口, 紡錘車
" 634	ME12・13	荒砂層	落ち込み				古墳時代~奈良時代須恵器

( ) 内は復原値, 単位m

第3表 井戸一覽表

井戸番号	掘方規模		井戸側組 み合わせ			出土遺物	備考
	平面	深さ	上段	中段	下段		
S E 101	210×200	124	桶		桶	土師器Ⅱ-1~3類, 須恵器甕, 青磁7・9類, 高麗青磁, 白磁5類, 陶器3・11類, 瓦, 土鍋, 常滑陶器, 石鍋	2段掘りか
102	162×160	95	桶		桶	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 青磁1・7・9類, 白磁6類, 陶器1・7・10類, 常滑陶器, 石鍋, 大甕通宝	
103	106×95	84			桶	土師器Ⅱ-1~2類, 須恵器, 青磁7類, 白磁, 瓦, 片口瓦器椀, 陶器1・11類, 石鍋, 土鍋	
104	140×113	60	桶		桶	土師器Ⅱ-3~4類, 青磁7類, 陶器3類, 須恵器甕	抜き跡
105	141×127	87	桶		桶	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 青磁7類, 白磁5類, 土鍋	
106	141×	115	桶		桶	土師器Ⅱ類, 瓦, 土鍋, 常滑陶器, 緑釉	
107	140×132	123	桶		桶	土師器Ⅱ-3類, 青磁7・8類, 白磁4・6類, 陶器3類, 片口	2段掘り
108	130×120	108	桶		桶	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 青磁7・9類, 白磁6類, 陶器1・7・11類, 石鍋, 片口	
109	74×73	61			曲物2段		
110	143×	103	桶		曲物	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 青磁7・9類, 常滑陶器, とりべ, 灰釉, 片口, 瓦器椀	
111	83×82					土師器Ⅱ-3類, 青磁7類, 白磁6類, 陶器1・9類, 片口, 土鍋	抜き跡
112	115×105	98	方形 縦板 組	桶	曲物	土師器Ⅱ-3類, 青磁7類, 石鍋, 土鍋, 片口	
201	212×195	125	桶		桶	土師器Ⅱ-2・4類, 須恵器大甕, 青磁7類, 白磁6類, 常滑陶器, 黒色土器, 石鍋, 滑石製品, 瓦器	
202	170×165	68	桶		桶	土師器, 青磁7類, 陶器1~3類, 砥石, 曲物片, 支脚, 水瓶鑄型, 土鍋	
203	155×150	126	桶		桶	土師器Ⅱ-3~4類, 須恵器, 陶器7類, 瓦, 土鍋	
204	185×	114				土師器, 須恵器, 青磁7・9類, 白磁5類, 陶器11類, 瓦, 土鍋	抜き跡
205	108×109	94				土師器Ⅱ-2~3類, 須恵器, 瓦	抜き跡
206	66×65	73			曲物3段	土師器Ⅱ-3~4 or 5類, 瓦	
207	95×83	124	方形 枠組	桶	桶	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 青磁7類, 瓦, 石鍋, 土鍋, 灰釉, 片口	
208	150×140	76	方形 縦板 組			土師器Ⅱ-1~3類, 青磁7類, 陶器3類, 片口, 瓦玉, フイゴ羽口	
209	165×155	113	桶		桶	土師器Ⅱ-1~2類, 須恵器, 青磁7・9類, 瓦, 土鍋, 片口, 石鍋, 鑄型, 墨書陶器	
210	91×87	40				土師器Ⅱ-1類, 土師器壺, 青磁7・8類, 白磁3・6類, 合子, 陶器1・10類, 片口, ガラス玉	抜き跡
211	197×164	83	桶		桶	土師器Ⅱ-3類, 弥生式土器, 土師器壺, 青磁7・9類, 白磁3・6類, 陶器1・3類, フイゴ羽口, 須恵器高坏	
212	107×	94				土師器Ⅱ-2 or 3類, 須恵器, 青磁7類, 陶器10・11類, 瓦器, 灰釉, 片口	抜き跡
213	215×211	108	桶		桶	土師器Ⅱ-2 or 3類, 常滑陶器, 白磁6類, 須恵器, 瓦, 片口	
214	74×70	93				土師器Ⅱ-2~3類, 須恵器, 青磁7・9類, 陶器3・10類	抜き跡 (桶)
215	90×90	97					"
216	80×63	96				土師器Ⅱ-2類, 須恵器, 青磁9類, 陶器6・8・11類, 骨	" (桶)
217		115					"

(単位cm)

井戸一覽表

井戸番号	掘方規模	掘方深度	上段形態	曲物	桶側			曲物		出土遺物
					長 (cm)	巾 (cm)	枚数	高	内径	
S E 501	1.31×1.22	0.73	桶側	2段	30.5+ $\alpha$	9.6	11+ $\alpha$	上33.7 下27.5	53 33.5	土師器(Ⅱ-3類), 須惠器, 陶器, 下駄, 箸, 墨書木札
S E 502	1.19×1.11	0.92	桶側		113.2+ $\alpha$	10.	20			土師器, 白磁, 須惠器 墨書礫, 石鍋,
S E 503	1.25×1.35	0.92	桶側	2段	51.2+ $\alpha$	8.7	33	上22 下24	45 41	土師器(Ⅱ-4類), 櫛, 平井瓦
S E 504	1.96	0.81	縦板方形	3段	(高さ 内径 45 58)			上23.6 中17 下9.5	35 33.5 35.5	土師器(Ⅱ-3類)
S E 505	0.84×1.13	0.63								土師器(Ⅱ-3類), 須惠器, 青磁, 板材, 下駄(5), 木製椀
S E 506	1.41×1.98	0.77	桶側		上 60+ $\alpha$ 下 49+ $\alpha$	11.1 10.8	19 16			土師器(Ⅱ-3・4類), 青磁, 火舎, 瓦下駄, 履物 状木製品,
S E 507	1.6×1.5									竹タガ, 土師器, 須惠器 石鍋, 滑石製品,
S E 508	1.9	0.83	縦板方形		(高さ 内径 45 70)					土師器, 須惠器, 青磁, 瓦
S E 509	1.57	0.9	桶側		上 下 64.8+ $\alpha$	10.3	14 21			土師器(Ⅱ-3類), 青磁 木製品, 常滑陶器,
S E 510	0.9	0.84	桶側	1段	61+ $\alpha$	12.	17	26.5	47	土師器, 青磁, 瓦器, 板材
S E 511	0.96×0.84	0.96								竹タガ, 土師器
S E 512	1.28	0.76	桶側		67.7+ $\alpha$	12.1	17			土師器(Ⅱ-2・3・4類), 青磁, 釘木偶, 下駄, 履物 状木製品,
S E 513	1.52	0.9	桶側		52.7	9.9	15			土師器, 下駄, 木製品,
S E 514	1.50×1.31	0.97	桶側		46.5	11.6	15			土師器(Ⅱ-3類), 須惠器, 青磁, 陶器
S E 515	0.69	0.5								竹タガ
S E 516	2.7×2.3	0.75								桶板片, 土師器(Ⅱ-5類), 須惠器, 木製品
S E 517	1.74	0.7								竹タガ, 土師器, 須惠器, 白磁, 緑釉

井 戸 一 覧 表

井戸番号	掘方規模	掘方深度	井戸側組み合わせ			出土遺物
			上	中	下	
S E 601	1.57×1.33	1.61			桶側	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器7・7A・9類, 雑器1・6・10・11類, 片口, 曲物
” 602	2.34×1.9+α	2.25	桶側	桶側	桶側	土師器Ⅱ-2類, 須恵器, 磁器7・7B・9 類, 雑器11類, 河原石
” 603	2.09×1.95	1.52	方形枠	桶側	桶側	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器3・7A類 雑器1類, 片口
” 604	3.10×3.03	1.58	桶側		桶側	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器6・7・(8) ・7C類, 雑器8・10類, 片口, 高麗青磁
” 605	2.32×1.9+α	2.25			方形枠 縦板組	土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器
” 606	2.52×2.23	1.88				土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器
” 607	2.0×2.0	1.23	桶側		桶側	土師器(Ⅱ-5)類, 須恵器
” 608	2.73×2.51	1.9	桶側		桶側	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器6・7・7C・ 9類, 雑器1・7・11類, 片口, 青磁器, 石鍋, 瓦
” 609	2.9×2.63	1.94	○	桶側	桶側	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器6・7・7C・9類, 雑器1・6・11類, 片口, 青磁器
” 610	1.87×(1.8)	1.6			方形枠 縦板組	土師器Ⅱ-3類, 須恵器, 磁器6・7・7C・8類, 雑器1・7・11類, 石鍋, 片口
” 611	2.03×1.89	2.06	桶側		桶側	土師器Ⅱ-3か4類, 須恵器, 磁器 3・6・7・7B・8・12類, 雑器1・3類, 片口
” 612	1.93×1.87	1.75	桶側		桶側	土師器Ⅱ-4類, 須恵器, 磁器6類, 雑器1類, 片口, 常滑
” 613	1.56×1.55	1.91	方形枠 縦板		曲物	土師器Ⅱ-2類, 須恵器, 磁器7B類, 石鍋
” 614	1.63×1.6	1.1			方形枠 縦板組	土師器Ⅰ-2B類, 須恵器, 瓦
” 615	0.95×0.89	1.0				土師器Ⅰ-2Aか2B類, 須恵器, 磁器1類
” 616	2.05×1.5	1.55				土師器Ⅰ類, 須恵器, 雑器10類
” 617	2.28×—	0.79			方形枠 縦板組	土師器Ⅰ類, 須恵器
” 618	2.85×2.80	3.06				土師器Ⅱ類, 須恵器, 磁器, 瓦, 天目瓶, 片口, 土鍋, 常滑

(単位m)

## 7. 第6'地点(君畑遺跡)

筑紫郡太宰府町字君畑2797番地

事前の調査地点には含まれていなかったが、バイパス建設工事道路で丘陵を削平中に、その崖面から遺構と思われる断面が認められた。そこで、急遽九地建と協議の上、追加調査したものである。

遺跡の立地は、西流する御笠川南岸の丘陵上にあり、第6地点『御笠川南条坊遺跡』を西に眼下する。

丘陵は畑地として利用され、横穴式古墳2基が石室の大半を破壊されて出土し、平安時代の古墳25基、溝2条、その他性格不明のピットや小土壙が検出された。遺物は、古墳からは副葬された須恵器約20点、鉄製品4点が出土し、古墳からは椀、杯、小皿などがセットでそれぞれ多数出土した。なお、1号古墳玄室内からは、直接古墳とは関係ないが、平安時代初期の須恵器甕片で、ヘラ書き『八代郡』『豊□』銘の出土が特記される。

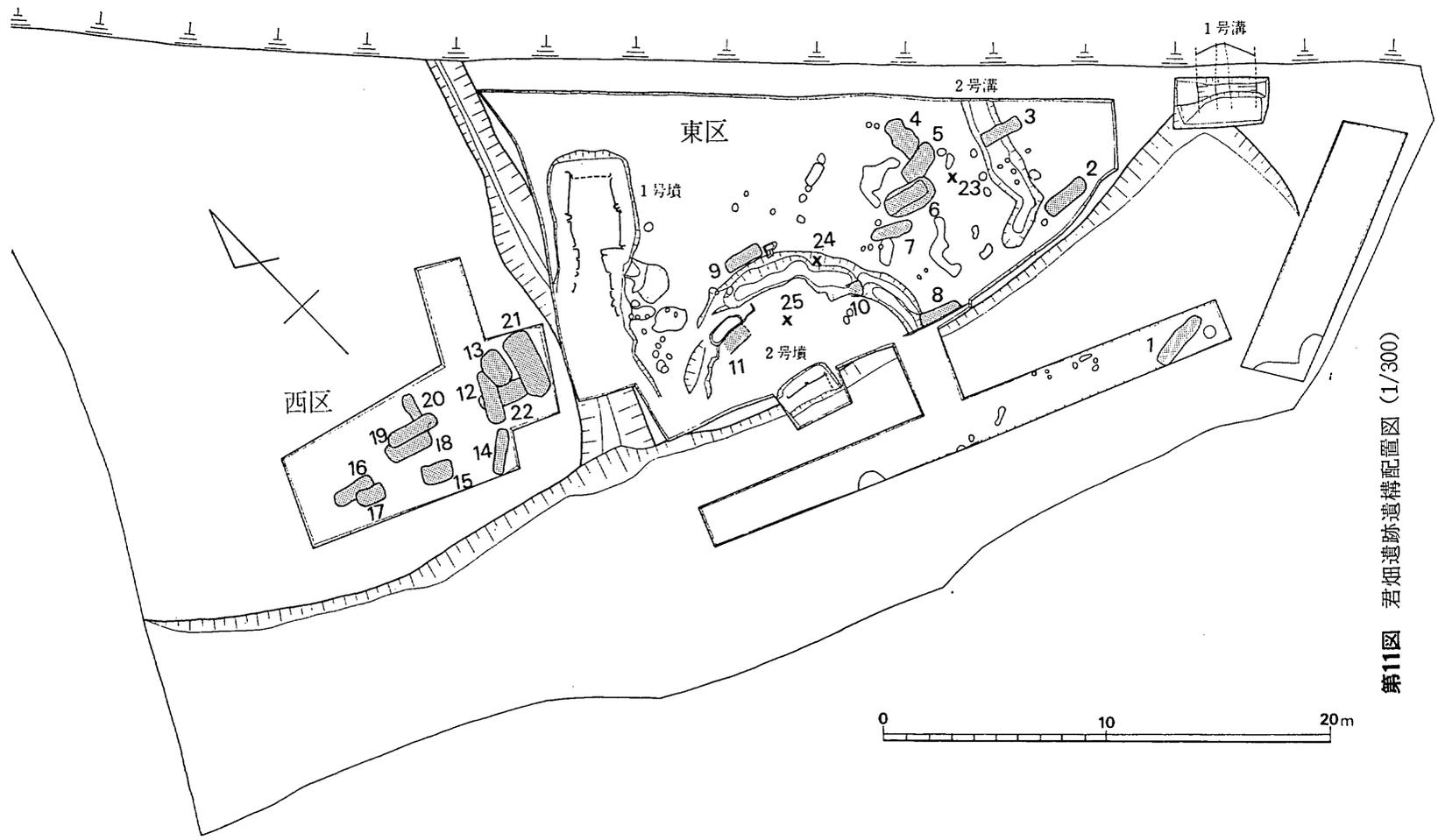
## 8. 第7地点(池田遺跡)

筑紫郡太宰府町大字太宰府字池田に所在する。4次にわたって2つの調査区域が発掘された。

第1調査区では3基の後期～終末期の古墳と、大鍛冶遺構と窯1基が発掘された。大鍛冶遺構は弥生中期末の包含層を切って作られているが、さだかな時期の確定はできない。

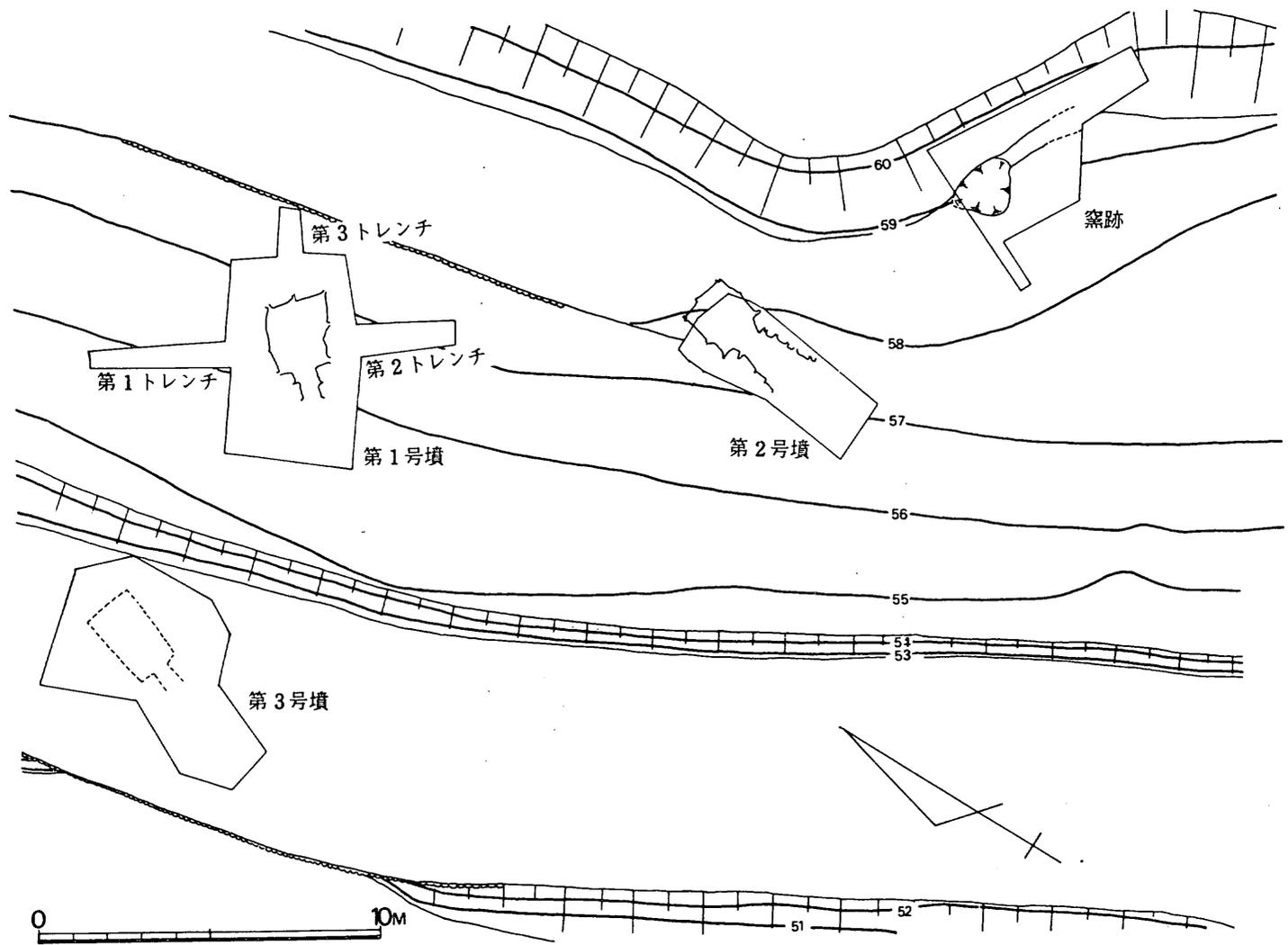
第2調査区では第4基の窯と住居跡3棟分が発掘された。1号窯と4号窯は当時としてはきわめて特異な形態をもつものであった。窯本体の片側に船底状窪部を設け、本体との間を8個の孔(燃燒孔と仮称)に通じている。これらの窯の時期は4号窯が2・3号住居跡を切って作られていることから上限を6C代におさえられるのみで、これまたさだかな時期判定はできない。この2基の窯はそれぞれ小指大のカナクソが出土しており、発掘当初より製鉄炉ではないかと論議をよんだ。報告者は「この窯が製鉄に関係するものであると断定することは、危険と考える。なお類例の発見を待ちたい」としている。

最近刊行された埼玉県大山遺跡の報告のなかで、大澤正己氏は「炭窯と木炭性状及び製鉄炉との関連」の問題をとりあげ、これらの補助燃燒孔を有する特異な窯と製鉄跡が、多く共存ないしは近辺にあることから、これらが製鉄に伴う炭窯であることを指摘している。それによると炭窯をA. 登り窯状 B. 補助燃燒孔付長形窯、C. 補助燃燒孔付平窯 D. 穴窯<sup>(註)</sup> E. 煙道付穴窯に分類し、池田1, 4号窯はBタイプの炭窯であり、このBタイプの炭窯は白炭を焼く窯



第11図 君畑遺跡遺構配置図 (1/300)

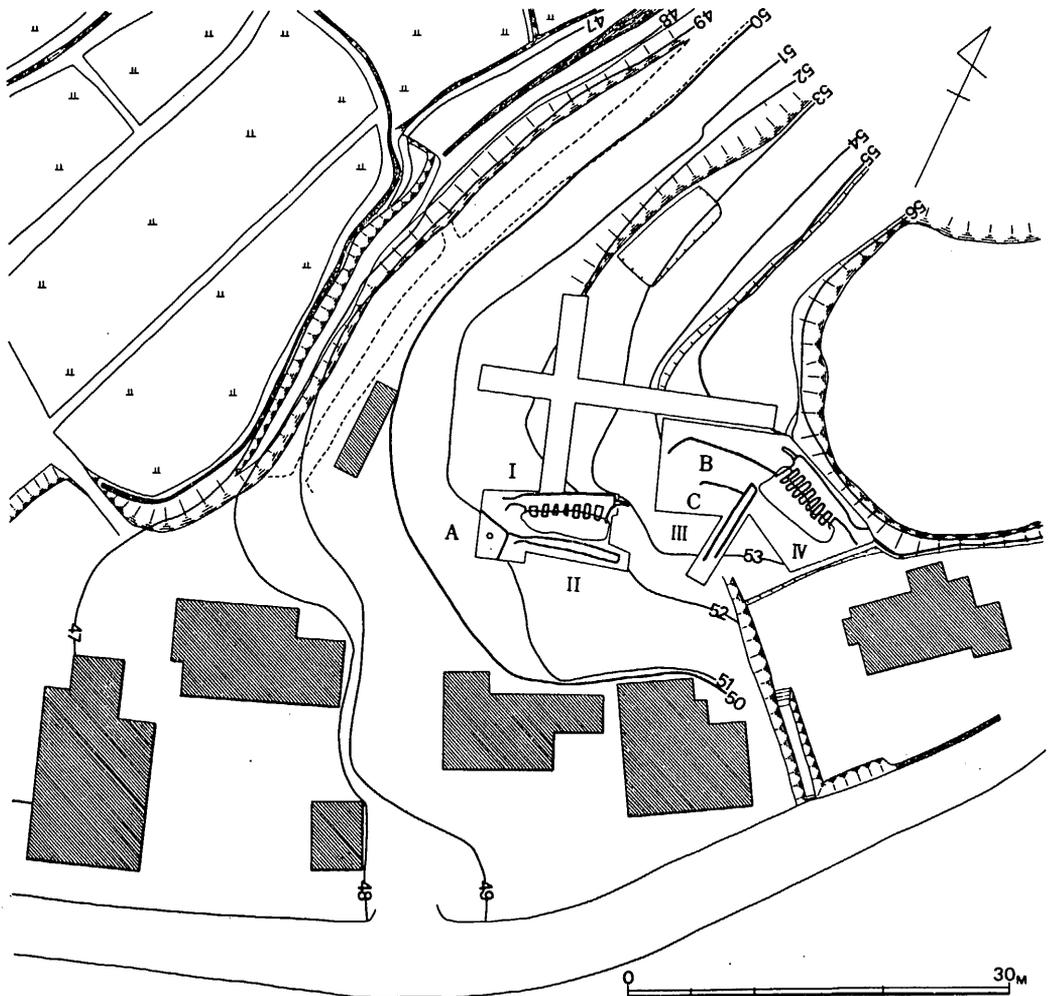




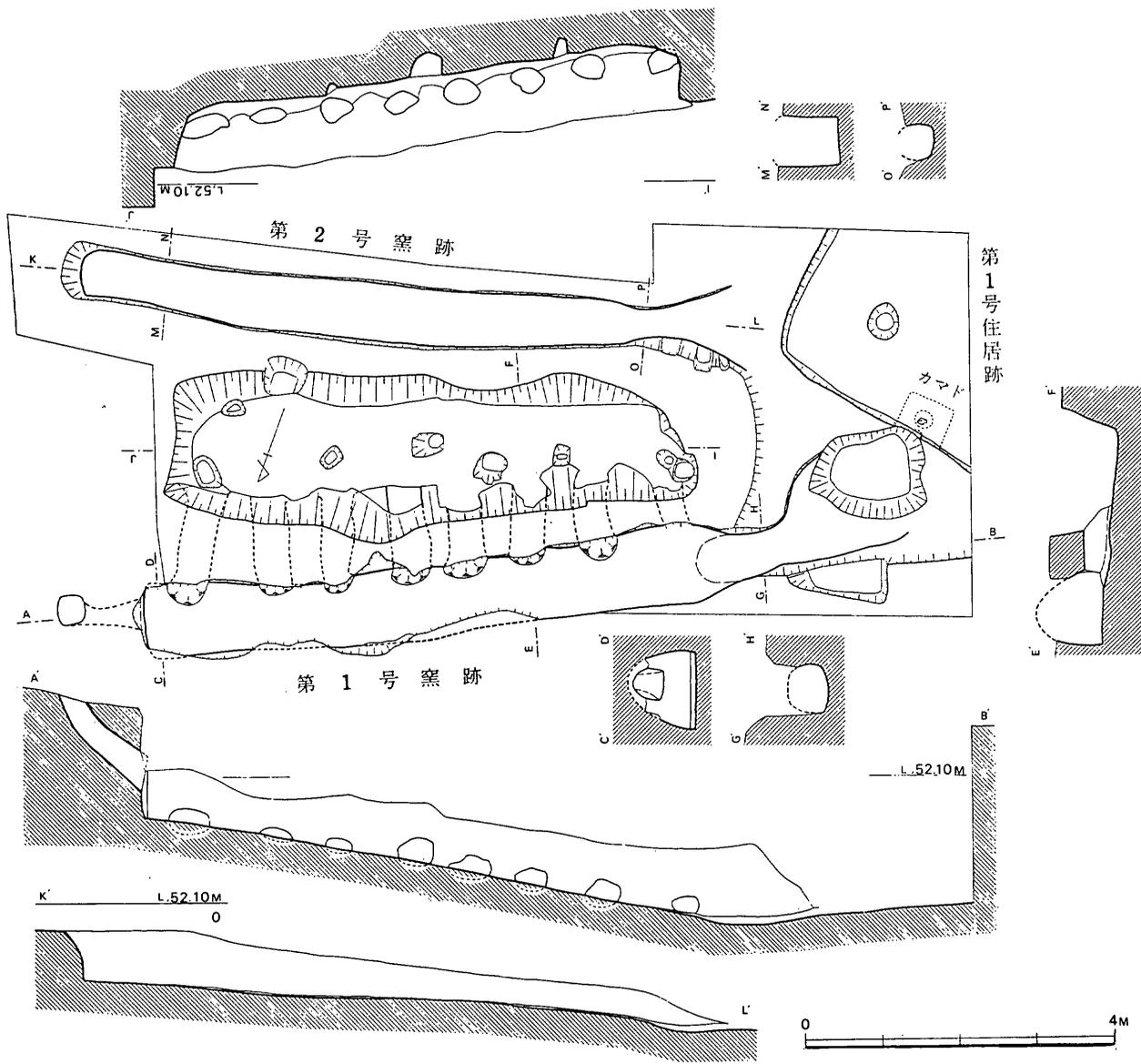
第13図 池田古墳群地形図 (縮尺1/200)

であり、池田1, 4号窯の舟底状窪部は窯外消化の付帯設備とみなしている。このBタイプの炭窯に共存する製鉄炉は平型炉であるとし、竪炉が黒炭を使用しこの黒炭が効率のよい還元剤として確認されるのに対し、平型炉における白炭の使用は製鉄炉の広がりにより還元性ガスよりも熱効率が優先するために採用されたとみるべきであるとしている。又これら補助燃焼孔付長形窯は、そのほとんどが官衙に関連した地区に設置されているのは注目すべきであるとしている。補助燃焼孔をもたない2・3号窯は粗朶の類を焼いた小炭用（鍛冶）の炭窯とみなすことができるのではなかろうかとしている。

註 大澤正己「大山遺跡を中心とした埼玉県下出土の製鉄関係遺物分析調査」  
埼玉県教育委員会「大山」埼玉県遺跡発掘調査報告書23 1979 所収



第14図 第2調査地区地形図（ローマ数字は窯跡番号，アルファベットは住居跡をさす）



第15図 第1・2号窯跡及び第1号住居跡実測図

## 9. 第8地点(大曲り遺跡)

筑紫野市針楯に所在する古墳時代の住居跡群で、調査は平安博物館に委嘱された。

2次にわたって発掘が行われ9棟分の住居跡とピット群が検出された。

3号住居跡は隅丸長方形ではほぼ全周に周溝を有する。出土の土師器は近年の調査成果からすると、最古式の須恵器を伴うか否か微妙な段階の一括の資料として、今後の土師器編年上の好資料となろう。

他の住居は方形ないしは隅丸方形を呈するもので、8号をのぞいてはすべて西側にカマドが検出された。出土の須恵器・土師器は6C後半に位置付けられるものである。

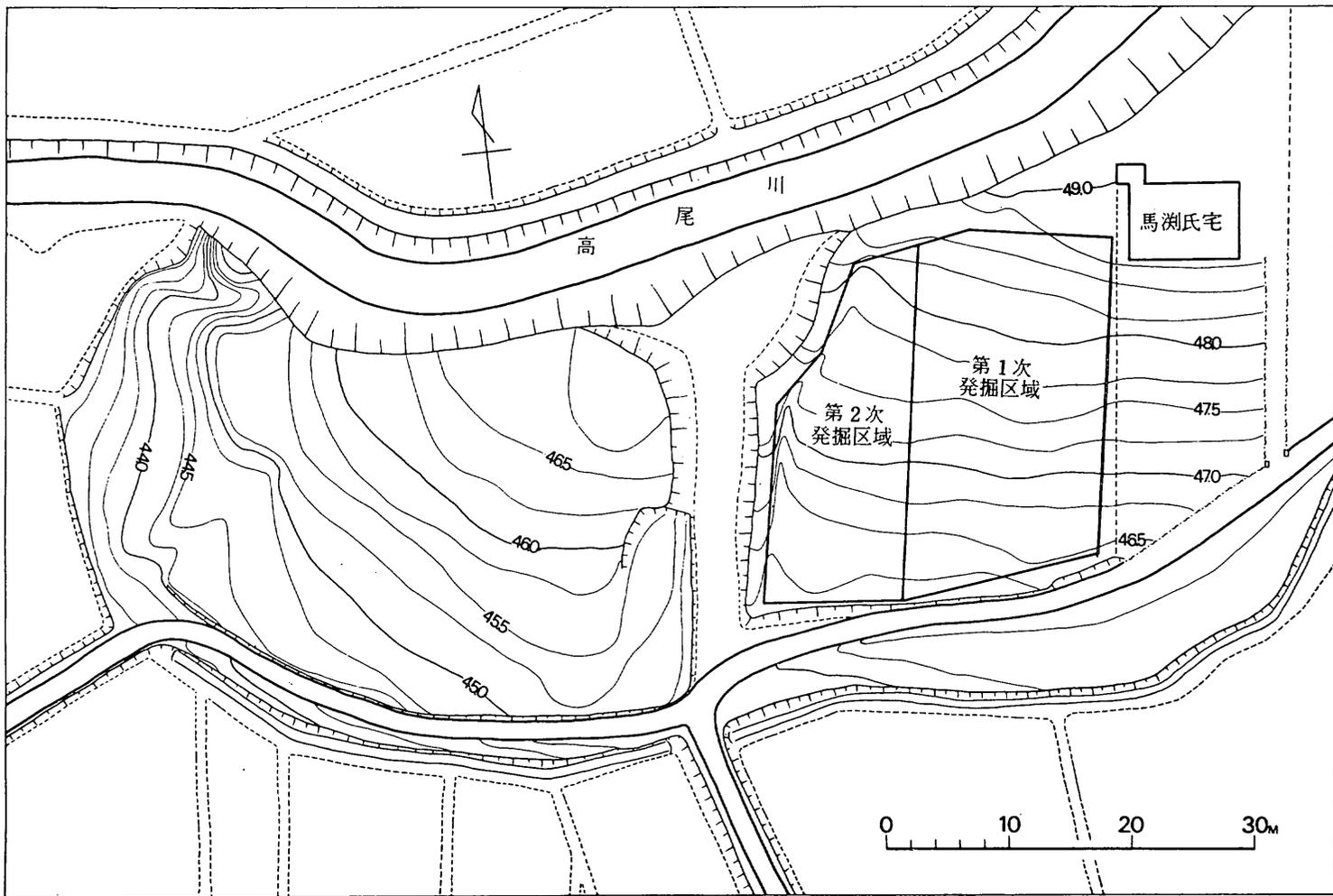
## 10. 第9地点(野黒坂遺跡)

筑紫野市大字針楯字野黒坂に所在した遺跡で南北の両区域が調査された。

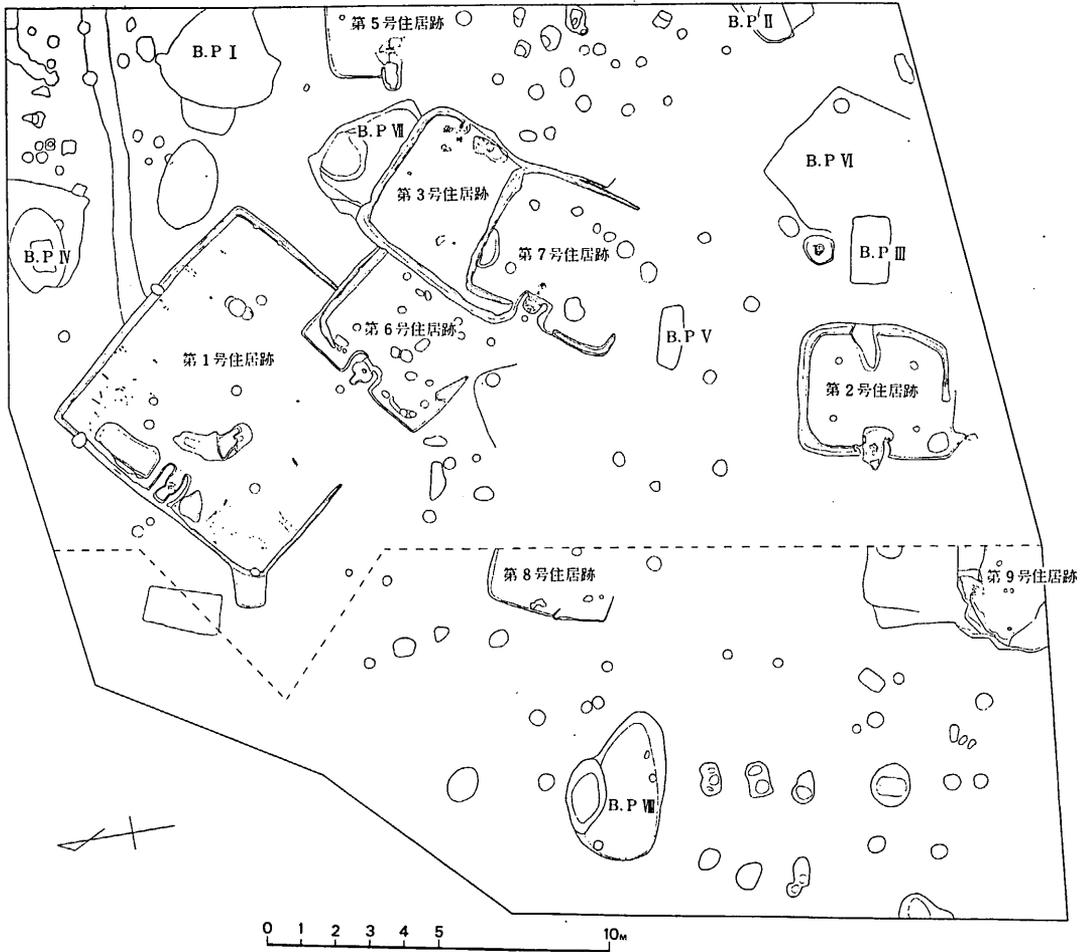
先土器時代の石器包含層、縄文晩期後半の遺物の他、住居跡46、弥生時代貯蔵穴52が調査された。報告者は出土土器を次のように11類に分け、それぞれの遺構の報告を行っている。

- 1類 縄文時代晩期後半
- 2類 弥生時代前期後半
- 3類 " 前期末
- 4類 " 中期初頭
- 5類 " 中期中葉
- 6類 " 後期初頭
- 7類 " 後期末
- 8類 古墳時代初頭
- 9類 古墳時代後期
- 10類 " (6世紀中葉頃)
- 11類 " (7世紀)

土器の分類に私見としては若干の疑義を感じる点もあるが、いずれにしても数多くの住居跡、貯蔵穴、多量の土器は聚落論・土器論等の検討に好資料を提供したといえる。



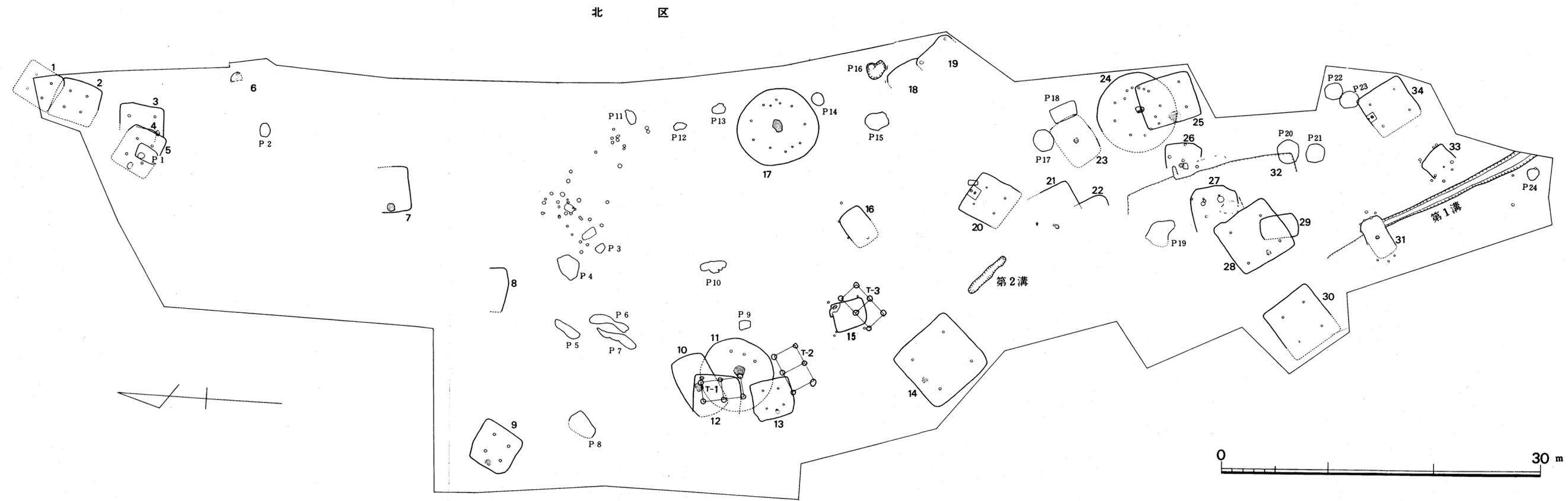
第16図 大曲り遺跡付近地形実測図



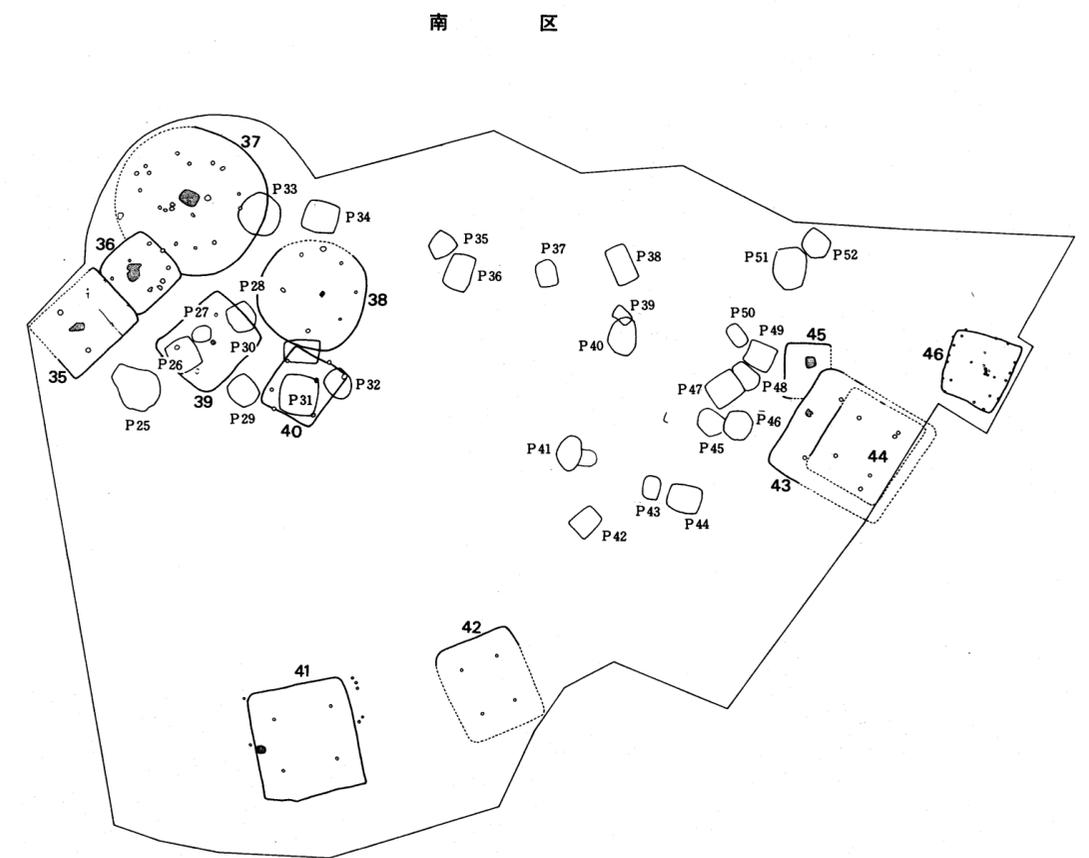
第17図 大曲り遺跡遺構配置図



第18图 野黑坂遗迹地形图



第19图 野黑板遺跡遺構配置図(1/300)



第4表 野黒坂遺跡住居跡一覧

No.	形態	時期	土器形式	大きさ(m)	深さ(cm)	溝	柱穴(個)	柱穴間距離(m)	炉の場所	かまど		焼土	作業台石
										場所	支脚		
1	方形	古墳時代	10類	(3.67×?)	46	有	2	1.60×		なし		なし	なし
2	方形	古墳時代	10類	3.86×1.87+(3.85)	48	なし	4	1.68×1.60		なし		西壁	なし
3	方形	古墳時代	10類	4.14×2.55+	36	なし	2	2.40×		南壁	石	なし	なし
4	方形	古墳時代	10類	不明	7	なし	不明						
5	方形	古墳時代	10類	3.84×2.70+(4.27)	30	有	4	1.64×1.96		西壁	石	なし	有
6	不明	古墳時代	10類	不明	不明					有	なし		なし
7	方形	古墳時代	10類	4.42×2.75+	42	なし	不明	不明		西壁	石	なし	なし
8	方形	古墳時代	10類	4.20×	15	なし							
9	方形	古墳時代	10類	3.98×4.05	61	なし	4	1.65×1.60		西壁	なし	東	なし
10	隅丸長方形	弥生中期	5類	5.70×3.30	70	なし	なし		中央			なし	なし
11	円形	弥生中期		径 6.90	50	なし	3		中央				
12	方形	古墳時代	10類	4.34×4.00+	13	なし	不明			北東隅	なし	なし	なし
13	方形	古墳時代	10類	3.67×3.50	40	なし	4	1.50×1.68		西壁	なし	東壁	有
14	方形	古墳時代	10類	6.68×6.55	60	有	4	3.94×3.83		北西壁	なし	なし	なし
15	方形	古墳時代	10類	2.88×2.55	48	なし	4	3.20×2.85		北東隅	石、壺	なし	有
16	隅丸長方形	弥生前期	3類	2.42×2.90+	38	なし	5		なし				
17	円形	弥生中期	4類	径 7.64	50	なし	12		中央			なし	有
18	隅丸方形	弥生中期	4類	3.40×	17	なし			不明				なし
19	隅丸方形	弥生中期	4類	4.00×	23	なし	2	3.10×	不明				なし
20	方形	古墳時代	10類	4.30×4.12	40	有	4	2.05×1.85		北東壁	石	なし	有
21	方形	古墳時代	10類	不明	不明	不明	不明			西壁	なし	不明	なし
22	隅丸方形	不明		不明	不明	不明	不明		不明	不明		不明	不明
23	隅丸長方形	弥生前期	3類	3.40×4.00+(4.60)	10	なし	不明		中央			なし	なし
24	円形	弥生中期	4類	径 7.40	50	なし	12		中央			なし	有
25	方形	古墳時代	10類	5.23×4.44	37	有	4	3.30×2.52		西壁	なし	東壁	なし
26	隅丸長方形	弥生前期	3類	3.10×2.40+(4.00)	50	なし	不明		中央			なし	なし
27	隅丸長方形	弥生前期	3類	4.40×3.60+	21	なし	不明		不明			なし	なし
28	方形	古墳時代	10類	5.72×5.19	53	有	4	3.65×3.05		南西壁	石	北東壁	有
29	隅丸長方形	弥生前期	3類	3.40×2.10	40	なし	なし		なし			なし	なし
30	方形	古墳時代	10類	5.17×5.25	55	有	4	2.55×2.85		南西壁?		不明	なし
31	隅丸長方形	弥生前期	3類	2.10×3.20+(3.90)	53	なし	16		中央			なし	なし
32	不明	古墳後期	11類	不明	不明	不明	不明			有		不明	なし
33	方形	弥生前期	3類	2.65×2.00+	48	なし			不明			なし	有
34	方形	古墳後期	10類	4.50×4.18	35			2.72×2.38		北西壁	土製	北東壁	なし
35	方形	弥生後期?		4.00×4.97	22	なし	6		中央			なし	なし
36	方形	弥生後期	6類	3.43×3.72	31	なし	5		中央			なし	なし
37	円形	弥生中期	4類	径 8.40	35	なし	20		中央			なし	なし
38	円形	弥生中期	4類	径 5.97	15	なし	6		中央			なし	なし
39	方形	弥生後期	7類	3.94×4.88	47	なし	4		中央			なし	有
40	方形	古墳前期	8類	3.69×3.34	10	なし	5	1.62×2.70	南寄り				なし
41	方形	古墳後期	10類	5.52×6.20	8	なし	4	3.02×2.92		北壁	石	なし	なし
42	方形	古墳後期	10類	4.54×0.90+(5.40)	5.5	なし	4	2.04×2.66	不明			なし	なし
43	方形	古墳後期	9類	6.49×5.40+(7.10)	30	なし	4	3.80×3.64		北東壁	なし	なし	なし
44	方形	古墳後期	9類	5.26×3.60+(4.60)	15	なし	4	2.54×2.22	不明	不明		なし	なし
45	方形	弥生前期	2類	6.49×7.10	30	なし	不明		中央			なし	なし
46	方形	弥生前期	2類	3.90×3.50	20	なし	23		中央			なし	なし

註 「焼土」とは炉、かまど以外に、壁際にあるものを指す。住居跡の大きさは床面で測った。

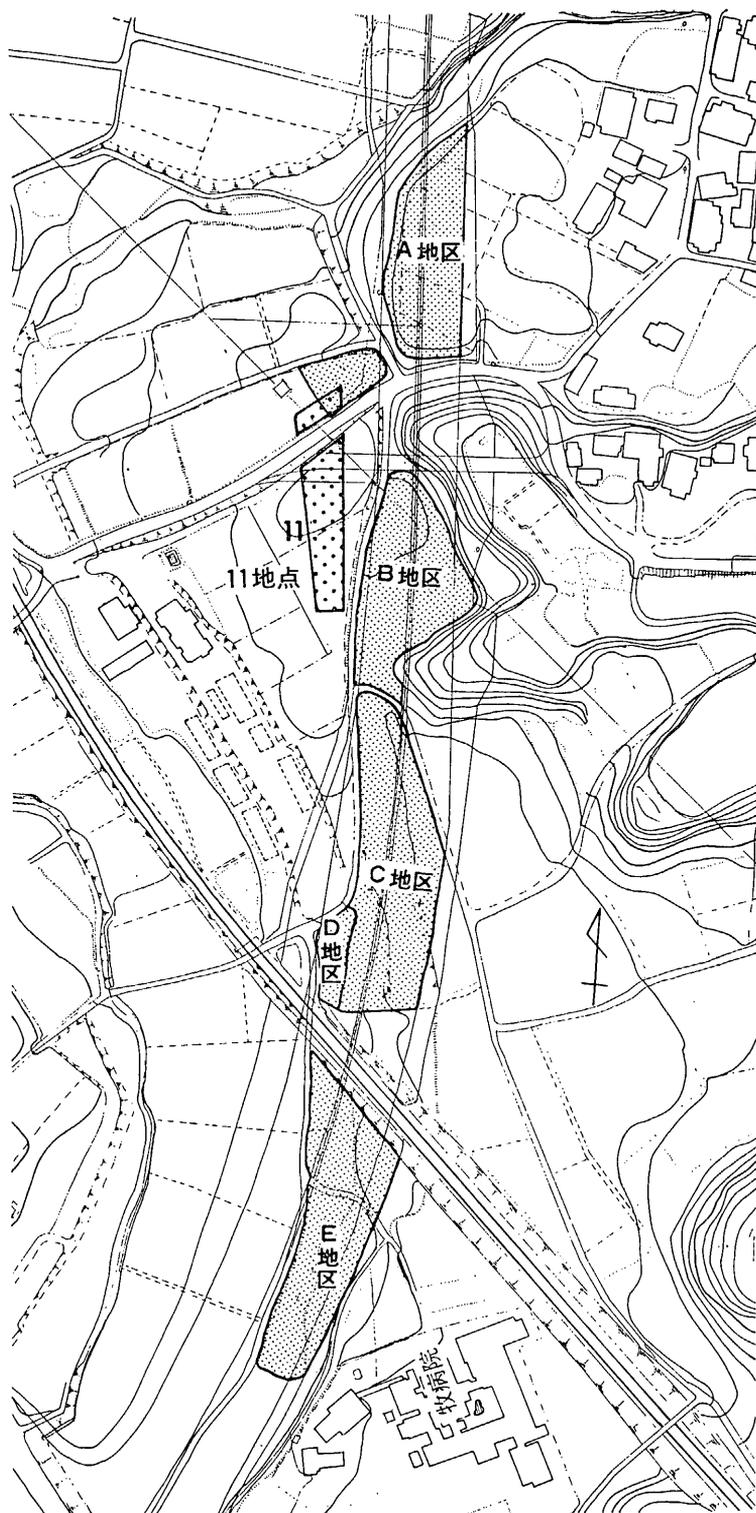
( ) は推定

	出土遺物		切りあい	備考	発掘時 番号
	土器	その他			
1	スエ・杯 土師・杯		2号を切る		P-1
2	スエ・杯 埴瓶 土師・杯 高杯		1号に切られる		P-2
3	スエ・杯 土師・杯 その他	土製丸玉	4・5号に切られる		P-5
4	スエ・杯 土師・甕		3・5号を切る		P-6
5	スエ・壺 杯 土師・杯	手づくね土器	3号を切る、4号に切られる、pit-1に切られる		P-7
6	土師・杯 甕				P-11
7	スエ・杯 壺 土師	手づくね土器 紡錘車			P-4
8	スエ・杯				P-60
9	スエ・杯 甕 土師・杯	手づくね土器 鉄鎌2 鉄刀子1			P-59
10	甕 器台 高杯		11号を切る 12号に切られる		P-39
11	なし		10・12・13号に切られる		P-32
12	土師・杯	杯内に丹を収納	10・11号を切る		P-29
13	土師・杯 碗形土器	滑石勾玉	11号を切る		P-28
14	スエ・杯 高杯 土師・甕 高杯	滑石平玉1			P-30
15	スエ・杯 土師・甕 碗形土器			竪穴外に柱穴	P-31
16	壺 甕				P-41
17	甕 浅鉢	鉄刀子 紡錘車 磨製石鎌 打製石鎌			P-12
18	甕		19号に切られる		wpit -20
19	甕		18号を切る		wpit -22
20	土師・杯 甕 碗形土器				P-33
21	スエ・壺 土師・杯 高杯		不明		P-34
22	土師 弥生式土器				P-49
23	弥生土器片		pit-17・18に切られる	埋めもどしあり	P-40
24	甕		25号に切られる		P-50
25	スエ・杯 土師・杯 高杯	手づくね土器2 鉄滓	24号を切る		P-45
26	弥生前期土器				P-37
27	壺・甕				P-35
28	スエ・杯 土師・杯 高杯	管玉1 滑石製白玉3	29号を切る	埋土内より9類 スエ器出土	P-47
29	弥生土器片	砥石	28号に切られる		P-52
30	スエ・杯 高杯 土師・杯 甕 高杯	手づくね土器3		埋土内より9類 スエ器出土	P-55
31	弥生土器片		第一溝に切られる		P-61
32	スエ・杯 土師・杯皿		pit-20を切る		P-36
33	甕				P-44
34	スエ・杯 壺 土師・杯 把手付き甕		pit-23に切られる	炭化材・わら・かや 南東部粘土塊	P-43
35	土器片少量		36号を切る	南東部にベット 有り	P-20
36	甕 高杯	硬玉製聚玉	35号に切られる 37号を切る		P-19
37	弥生土器片少量		36号に切られる pit-33を切る		P-18
38	弥生土器片少量	石鎌 石包丁	pit30を切る		P-17
39	高杯 甕	ひしゃく	pit-26・27・28を切る		P-16
40	壺		pit-30・31・32を切る		P-15
41	土師・杯 甕	滑石製平玉 土製槌		火災にあっている 炭化木材 かや多数	P-13
42	土師・甕			火災にあっている 炭化木材	P-14
43	スエ・杯 高杯 土師・碗形土器 鉢 壺		44号・45号を切る	44号の拡張か?	P-22
44	土師・甕		43号に切られる		P-26
45	甕 壺		43号に切られる		P-23
46	甕 壺	磨製石斧			P-25

第5表 野黒坂遺跡竪穴(pit)一覽表

pit 番号	性格	時期	土器形式	口 辺 部		底 面		深さ (cm)	断面の形	埋もどし
				形	大きさ(m)	形	大きさ(m)			
pit 1	不明	不明	不明	隅丸長方形	2.04×1.36	隅丸長方形	1.92×1.28	23		
pit 2	掘り込み	弥生中期	4類	隅丸長方形	2.68×1.90	隅丸長方形	1.92×1.54	25		
pit 3	掘り込み	弥生中期	4類	長方形	1.60×1.45	長方形	1.08×0.80	35		
pit 4	不明	古墳後期	10類	楕円形	2.25×1.68	楕円形	1.96×1.56	60		
pit 5	不明	弥生中期	4類	溝形状	2.35×0.85	溝形状	2.30×0.55	44		
pit 6	不明	弥生中期	4類	溝形状	3.80×0.70	溝形状				
pit 7	不明	弥生中期	4類	溝形状	4.10×0.70	溝形状				
pit 8	土器溜り	古墳後期	10類	不定形	2.80×2.20	不定形		50		
pit 9	貯蔵穴	弥生前期	3類	方形	0.54×0.68	方形	1.10×0.89	102	袋状	なし
pit 10	不明	弥生中期	5類	不定形	2.20×1.20	不定形	1.85×1.00	20		
pit 11	不明	弥生中期	4類	隅丸長方形	1.32×0.88	隅丸長方形	1.04×0.60	38		
pit 12	不明	弥生中期	4類	楕円形	1.20×0.70	円形	0.74×0.64	92		
pit 13	不明	弥生中期	4類	楕円形	1.26×0.96	楕円形	1.08×0.60	52		
pit 14	不明	弥生中期	4類	楕円形	1.50×1.14	円形	1.12×0.98	23		
pit 15	不明	弥生中期	4類	楕円形	2.24×1.50	楕円形	1.56×0.75	77		
pit 16	不明	弥生中期	4類	隅丸長方形	1.76×1.10	隅丸長方形	1.38×0.75	75		
pit 17	貯蔵穴	弥生前期	3類	円形	0.71×0.67	多辺形	2.12×1.80	230	袋状	なし
pit 18	貯蔵穴	弥生前期	3類	方形	0.85×0.75	長方形	2.00×1.50	195	袋状	なし
pit 19	土器溜り	古墳後期	10類	不定形	不明			不明		
pit 20	貯蔵穴	弥生前期	3類	不定形	1.74×1.55	多辺形	2.18×2.11	127	袋状	あり
pit 21	貯蔵穴	弥生前期	3類	円形	1.19×1.20	多辺形	1.86×1.89	176	袋状	あり
pit 22	貯蔵穴	弥生前期	3類	不定形	1.39×1.21	隅丸胴張り方形	1.70×1.64	105	袋状	あり
pit 23	貯蔵穴	弥生前期	3類	不定形	1.42×1.30	多辺形	1.80×1.63	153	袋状	あり
pit 24	不明	弥生中期	4類	楕円形	1.28×0.88	楕円形	0.84×0.52	58		
pit 25	貯蔵穴	弥生前期	2類	円形	2.98×2.65	多辺形	2.88×2.35	180	方形	あり
pit 26	貯蔵穴	弥生前期	2類	円形	0.99×0.82	方形	1.84×1.62	165	袋状	なし
pit 27	不明	弥生前期	2類	不定形	1.03×0.87	不定形	0.78×0.86	95		
pit 28	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.63×1.13	隅丸方形	1.46×1.54	85	袋状	あり
pit 29	貯蔵穴	弥生前期	2類	方形	0.64×0.48	胴張り方形	1.75×1.55	195	袋状	あり
pit 30	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.54×1.51	長方形	1.94×1.61	64	袋状	あり
pit 31	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.36×1.65	方形	2.17×2.22	183	袋状	あり
pit 32	貯蔵穴	弥生前期	2類	円形	0.77×0.76	隅丸方形	1.68×1.46	75	袋状	なし
pit 33	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	2.06×1.77	多辺形	2.30×2.31	150	袋状	なし
pit 34	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.76×1.75	方形	1.93×1.79	145	袋状	なし
pit 35	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.55×1.74	台形	1.47×1.31	105	袋状	なし
pit 36	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	0.80×1.40	長方形	1.97×1.46	148	袋状	なし
pit 37	不明	不明	不明	長方形		長方形	1.50×1.10		方形	
pit 38	貯蔵穴	弥生前勝	2類	長方形	2.13×1.47	長方形	2.16×1.24	158	方形	なし
pit 39	不明	不明	不明	長方形	1.08×0.74	長方形	1.11×0.78	92	方形	なし
pit 40	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.27×2.15	多辺形	1.61×2.12	170	袋状	なし
pit 41	貯蔵穴	弥生前期	2類	楕円形	1.94×0.91	不定形	1.99×1.82	160	袋状	あり
pit 42	貯蔵穴	弥生前期	2類	長方形	1.43×1.22	長方形	1.55×1.25	75	袋状	なし
pit 43	貯蔵穴	弥生前期	2類	長方形	1.11×0.87	長方形	1.31×1.02	96	袋状	あり
pit 44	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	方形	1.70×1.86	方形	1.57×1.91	82	袋状	あり
pit 45	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.25×1.75	隅丸方形	1.27×1.64	134	袋状	なし
pit 46	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.19×1.09	多辺形	1.70×1.50	180	袋状	なし
pit 47	貯蔵穴	弥生前期	2類	長方形	2.03×1.95	長方形	1.85×1.67	208	袋状	あり
pit 48	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.00×1.20	隅丸長方形	0.90×1.69	205	袋状	なし
pit 49	貯蔵穴	弥生前期	2類	不定形	1.05×1.40	方形	1.43×1.61	235	袋状	なし
pit 50	貯蔵穴	弥生前期	2類	長方形	1.53×1.11	長方形	1.29×0.78	44	袋状	なし
pit 51	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.61×1.49	隅丸長方形	1.82×2.32	253	袋状	あり
pit 52	貯蔵穴	弥生前期	(2類)	不定形	1.24×1.40	隅丸方形	1.49×1.50	196	袋状	あり

	出土遺物		切りあい	備考	発掘時番号
	土器	その他			
1	スエ・土器・小片		5号住居跡を切る	井戸状の深い穴がある	P-8
2	甕	石鏃			P-10
3	甕				Wpit-15
4	スエ・杯, 壺, 甕				Wpit-14
5	弥生中期土器片				Wpit-13
6	弥生中期土器片				Wpit-16
7	弥生中期土器片				Wpit-17
8	スエ・杯, 土師・杯, 高杯				P-58
9	甕				Wpit-18
10	甕, 壺				Wpit-10
11	甕				Cpit-1
12	甕, 器台				Cpit-2
13	甕				Cpit-3
14	甕				Cpit-4
15	甕, 壺, 大甕	磨製石斧・磨製石剣		土器多し	Wpit-19
16	弥生中期土器片	今山製石斧			Wpit-21
17	甕4, 壺2, 蓋2	丹を入れた壺あり	23号住居跡を切る		Wpit-11
18	甕10, 壺3, 蓋1	石鏃4, スクレーパー2	23号住居跡を切る	土器多量出土	Wpit-4
19	スエ・杯, 土師・杯, 高杯				P-48
20	甕3, 壺1		32号住居跡を切る	床面に炭化材あり	Wpit-3
21	弥生前期土器片			床面に炭化材あり	Wpit-5
22	弥生土器細片		pit-23を切る		P-53
23	なし		pit-22に切られる 34号住居跡を切る		Wpit-6
24	甕, 壺				Wpit-1
25	小甕1, 壺3, 彩文壺1	丹の塊あり		張り出しあり	Spit-10
26	甕, 鉢, 彩文壺	砥石	39号住居跡に切られる		Spit-17
27	弥生前期土器片	石鏃	39号住居跡に切られる		Spit-6
28	弥生前期土器片		39号住居跡に切られる		Spit-23
29	甕			完全残存	Spit-8
30			38・40号住居跡に切られる		Spit-22
31	甕		40号住居跡に切られる		Spit-11
32	甕		40号住居跡に切られる		Spit-21
33	甕4, 鉢1		37号住居跡に切られる		Spit-7
34	甕				Spit-9
35					Spit-29
36					Spit-30
37	弥生土器・スエ・土師				Spit-4
38	甕			床面に柱穴5あり	Spit-2
39					Spit-1
40	弥生前期土器片				Spit-28
41	甕, 壺			張り出しあり	Spit-3
42	甕, 壺	石ヒ			Spit-18
43	鉢, 蓋, 壺				Spit-13
44	弥生土器片	磨製石斧, 磨製石剣			Spit-19
45			pit-46に切られる Pit-47を切る		Spit-25
46	甕		Pit-45を切る		Spit-12
47	甕, 彩文壺	石鏃2	Pit-45に切られる Pit-48に切られる		Spit-16
48			Pit-47を切る Pit-49を切る		Spit-24
49		石包丁	Pit-48に切られる		Spit-20
50	甕	石鏃1			Spit-5
51	弥生前期土器片		Pit-51を切る		Spit-26
52	弥生前期土器片		Pit-52に切られる		Spit-27

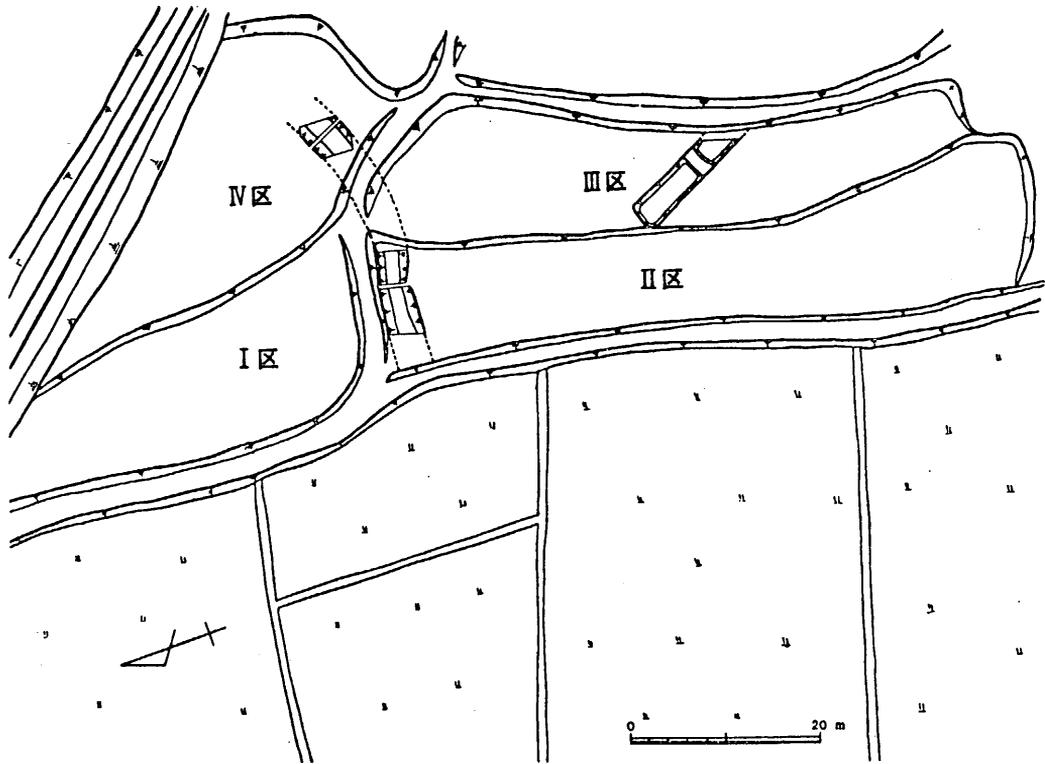


## 11. 第10地点 (永岡遺跡)

筑紫野市永岡に所在する遺跡で、調査は別府大学文学部考古学研究室に委嘱して行った。広大な面積であったので、A～E地区の5区に分け、2次にわたって発掘が行われた。A～D地区においては遺構の存在はみられなかったが、E地区においては溝2条が検出された。出土遺物は中期末に位置付けられるもので、溝の時期をほぼ確定できた。

第20図 永岡遺跡付近地形図

(九州地方建設局原図)

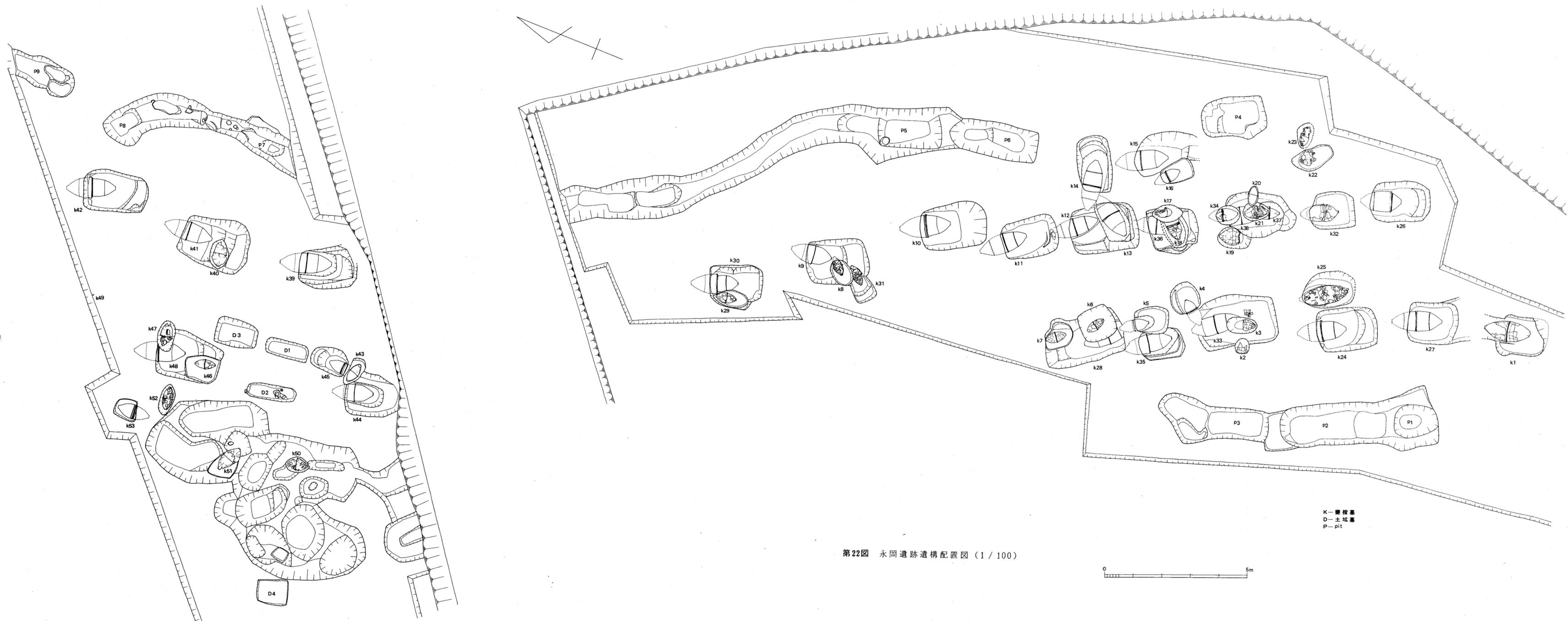


第21図 E地区地形及び遺構平面図

## 12. 第11地点（永岡甕棺遺跡）

筑紫野市大字永岡に所在した甕棺墓群である。52基の甕棺と4基の土壙墓、墳墓群に伴なう溝と竪穴などの葬送祭祀に関係する遺構が調査された。甕棺はほぼ単純な様相を示し、これまで汲田式として図示されることの多かった形態のものであるが、汲田式とするには不適當でかつ狭義の須玖式より古いもので、一土器型式を付与するにふさわしい時期のものである。祭祀に使用された土器は中期後半に発達する丹塗磨研土器とは異なるが、器面はヘラ研磨され本来光沢のあったものであり、日常容器に比すと精製されたものである。又これらの土器の大半は、打欠き、破砕が意図的に行われており、葬送習俗の一般的様相を示している。

又人骨が29体分出土したが、比較的保存状態の良いものが多かった。又人骨には下顎関節異常、橈骨下端骨折等の異常が認められるのが数体あり、さらにK10人骨は前額部から深く右眼窩上壁に達する致命的な傷痕があり、しかも治癒機転の営まれた形跡もあって注目をひいた。



第22圖 永岡遺跡遺構配置圖 (1/100)

第6表 甕棺墓一覽表

甕棺	方位	傾斜	形式	組合せ		墓 壙 長径×短径×深さ	年 令	粘土 目張り	人骨	備 考
				下	上					
1	N-8°-W	14.5°	接口	甕+甕		隅丸長方形 (170)×131×61	成人用			
2	S-78°-W			壺			小児用			
3	N-21°-W			甕			"			
4	S-42.5°-W	13°	接口	甕+甕		隅丸方形 104×102×43	"	○	○	
5	N-34°-W	4°	"	"		隅丸長方形 118×95×41	"	○		
6	N-48°-W	8°	"	"			"	○		
7	S-49°-E	-9°	"	"			"	○		
8	N-38°-E	7°	"	"		楕円形 97×68×22	"	○		
9	N-10°-W	-4°	"	"		隅丸長方形 220×154×85	成人用		○	
10	N-30°-W	2°	"	"		隅丸長方形 234×155×98	"		○	
11	N-41°-W	1°	"	"		隅丸長方形 195×136×107	"		○	
12	N-40.5°-W	2°	"	"		隅丸長方形 236×170×65	"	○	○	
13	N-33°-E	9°	"	"		67	"	○	○	12号甕棺と墓壙を共有
14	S-79°-W	0°	"	"		隅丸長方形 198×109×59	"	○	○	
15	N-26°-W	4°	"	"		隅丸長方形 185×145×53	"	○	○	
16	N-47°-W	-5°	"	"		隅丸長方形 117×71×36	小児用	○		
17	N-29.5°-W	13°	"	甕+鉢		楕円形 107×61×22	"			
18	N-45°-E	-2°	"	"		楕円形 152	"		○	
19	S-20°-E	-16°	単棺	壺		楕円形 120×75×44	成人用			穿孔あり
20	N-82°-W		接口	甕+甕		楕円形 70×40×10	小児用			
21	N-31°-W	3°	"	"		楕円形 110×69×34	"			
22	S-28°-W	21°		?+壺		楕円形 130×71×23	"			壺口縁部打ち欠き
23	S-83°-W	8°	接口	壺+甕			"			
24	N-22°-W	4°	"	甕+甕		隅丸長方形 216×152×73	成人用	○	○	
25	N-26°-W	9°	"	"		隅丸長方形 (180)×125×35	"		○	
26	N-17°-W	-1°	"	甕+鉢		隅丸長方形 209×141×72	"	○	○	
27	N-20°-W	0.5°	"	甕+甕		隅丸長方形 174×147×64	"	○	○	
28	S-46°-E	4°	"	"		隅丸長方形 282×157×73	"	○	○	
29	S-7°-W	4°	"	"		不整楕円形 125×60×14	小児用	○		
30	S-19°-W	2°	"	"		隅丸長方形 185×125×90	成人用	○	○	

甕棺	方位	傾斜	形式	組合せ		墓 墳 長径×短径×深さ	年 令	粘土 目張り	人骨	備 考
				下	上					
31	N-37° -E	16°	接口	甕+甕		隅丸長方形 (90)×76×41	小児用			
32	N-20° -W	-0.5°	"	甕+壺		隅丸長方形 143×127	成人用		○	壺口縁部打ち 欠き
33	N-35° -W	8°	"	甕+甕		隅丸長方形 285×178×89	成人用	○	○	
34	N-31° -W	3°	"	"		楕円形 83×67×37	小児用	○		
35	N-35° -W	2°	"	"		隅丸長方形 157×107×60	成人用	○	○	
36	N-18° -W	4°	"	"		隅丸長方形 168×133×90	"		○	
37	N-20° -W	7°	呑口	"		楕円形 101	小児用			
38	N-30° -W	-7°	接口	"		隅丸長方形 205×160×73	成人用	○	○	
39	N-18° -W	-6.5°	"	"		隅丸長方形 (200)×143×97	"	○	○	
40	N-74° -E		覆口	甕+壺		楕円形 104×65	小児用	○		壺口縁部打ち 欠き
41	N-7° -W	-1.5°	接口	甕+甕		隅丸長方形 231×170×97	成人用	○	○	
42	N-25° -W	-2°	"	"		隅丸長方形 228×138×78	"	○	○	
43	N-70° -W	7°	"	"		不整楕円形 108×47×14	小児用	○		
44	N-14° -W	9°	"	"		隅丸長方形 (205)×148×60	成人用	○	○	
45	S-3° -W	-7°	"	"		隅丸長方形 131×88×65	小児用	○	○	
46	N-18° -W	11°	"	"		不整形 116×91×25	"	○		
47	S-78° -W		"	"		楕円形 104×60×19	"	○		
48	N-17.5° -W	5°	"	"		隅丸長方形 219×158×103	成人用	○	○	
49	未 掘									
50	N-14° -W	8°	接口	甕+甕		楕円形 84×53×14	小児用	○		
51	S-71° -E	7°	"	"		不整形	"	○		
52	N-80° -E	7°	"	"		楕円形 110×47×23	"	○		
53	S-6° -E	0.5°	"	"		不整形 77×73×46	"	○		

単位cm, ( )は推定値, 方位は下甕を基準とする。

第7表 永岡出土人骨一覽表

甕棺番号	性	年令	保存状態	頭形示数	身長(cm)	風習的 技齒	備考
K 4	不明	幼兒	△			無	
K 9	♂	熟年	○	76.8	160.6	無	丹
K10	♂	熟年	○		167.3	無	丹, 前額部に傷痕, 21   2 齒槽閉鎖
K11	♂	成年	△	75.7		不明	
K12	♂	熟年	○	81.3	164.0	無	
K13	♀	成年	△		147.8	無	
K14	♀	成年	△		145.3	無	
K15	♀	老年	△	80.5	152.5	不明	
K18	不明	幼兒	×			無	
K24	♂	成年	○	78.0	162.5	無	丹
K25	不明	若年	△			不明	
K26	♀	成年	△		154.8	不明	
K27	♀	成年	○		150.3	不明	丹
K28	♀	成年	△		149.2	不明	
K30	♀	熟年	○	77.5	148.0	不明	頭部に蓆附着
K32	♂	熟年	△	76.7		不明	
K33	♀	成年	○	83.7	160.0	無	丹, 蓆附着
K35	♂	成年	○	75.0	159.8	無	
K36	♀	熟年	◎	78.7	154.0	無	下顎関節異常
K38	♀	成年	○	81.2	151.7	無	
K39	♀	成年	◎	73.9	153.5	無	下顎関節異常
K41	♀	熟年	△		148.8	不明	丹, 蓆附着
K42	♀	熟年	△	80.8		不明	
K44	♀	熟年	△		148.6	不明	
K45	不明	幼兒	×			無	
K48	♂	熟年	△	78.2	163.5	無	2   齒槽閉鎖
K53	不明	幼兒	×			不明	
K54 K55	不明	不明	×				
D 4	不明	成年	×			不明	

※保存状態 ◎ 最良 ○ 良 △ 不良 × 部分的残存

## Ⅱ. 総目次

### 1. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

筑紫郡太宰府町・筑紫野町所在遺跡群 第1集

まえがき

#### 水城・五條地区

- 1. 水城地区…………… 1
- 2. 五條地区…………… 2

#### 池田遺跡

- 1. はじめに…………… 4
- 2. 位置と環境…………… 5
- 3. 遺構・遺物の概要…………… 6
- 4. 第2調査区第1・4号窯跡出土鉄滓について…………… 30

#### 大曲り遺跡

- はしがき…………… 34
- 1. 調査経過…………… 35
- 2. 立地…………… 37
- 3. 遺構…………… 39
- 4. 遺物…………… 48
- 5. 考察…………… 64
- むすび…………… 70

#### 野黒坂遺跡

- はじめに…………… 71
- 1. 位置と地形…………… 73
- 2. 調査概要…………… 73
- 3. 遺構と遺物…………… 76
- 4. 結語…………… 105

#### 永岡遺跡

- 1. 調査経過…………… 111
- 2. 遺跡…………… 114
- 3. 遺構…………… 116
- 4. 遺物…………… 121
- 5. 周辺遺跡の調査(その1)…………… 129
- 6. 周辺遺跡の調査(その2)…………… 140

## 池 田 遺 跡

1. はじめに	宮小路 賀 宏	4
2. 位置と環境	前 川 威 洋	5
3. 遺構・遺物の概要		6
1. 第 1 調査区		
(1) 池田古墳群	栗 原 和 彦	6
A. 第 1 号 墳		6
B. 第 2 号 墳		9
C. 第 3 号 墳		11
(2) 炉 跡		14
(3) 窯 跡		16
小 結		18
2. 第 2 調査区		
(1) 窯 跡	宮小路 賀 宏	19
A. 第 1 号 窯 跡		19
B. 第 2 号 窯 跡		21
C. 第 3 号 窯 跡		22
D. 第 4 号 窯 跡		23
小 結		25
(2) 住 居 跡	前 川 威 洋	25
A. 第 1 号 住居跡		25
B. 第 2・3 号 住居跡		25
4. 第 2 調査区第 1・4 号 窯跡出土鉄滓について	坂 田 武 彦	30
(当遺跡報告の編集は栗原が担当した。)		

## 大 曲 り 遺 跡

は し が き		34
1. 調査経過		35
2. 立 地		37
3. 遺 構		39
第 1 次 調 査		
(1) 竪 穴 住 居 跡		39
(2) ピ ッ ト 類		45
第 2 次 調 査		
(1) 竪 穴 住 居 跡		47
(2) ピ ッ ト 類		47
4. 遺 物		48
5. 考 察		64
む す び		70

なお、この報告は、伊藤玄三、近藤喬一、田中勝弘の共同執筆である。

## 野 黒 坂 遺 跡

は じ め に	71
1. 位 置 と 地 形	73
2. 調 査 概 要	73
(1) 南 区	73
(2) 北 区	74
3. 遺 構 と 遺 物	76
(1) 旧 石 器 時 代	76
(2) 縄 文 時 代	81
(3) 弥生時代前期(その1)	83
(4) 弥生時代前期(その2)	85
(5) 弥生時代中期(その1)	89
(6) 弥生時代中期(その2)	91
(7) 弥生時代後期(その1)	93
(8) 弥生時代後期(その2)	94
(9) 古墳時代前期	95
(10) 古墳時代後期(その1)	95
(11) 古墳時代後期(その2)	100
(12) 古墳時代後期(その3)	108
4. 結 語	105

## 永 岡 遺 跡

1. 調 査 経 過	新 原 正 典	111
2. 遺 跡	橋 昌 信	114
3. 遺 構	新 原 正 典	116
4. 遺 物	(1) 土器及び土製品	中 村 幸 史 郎 121
	(2) 石 器	橋 昌 信 126
5. 周 辺 遺 跡 の 調 査 (そ の 1)	橋 昌 信	129
6. 周 辺 遺 跡 の 調 査 (そ の 2)		
	一 宝 満 川 流 域 の 先 土 器 時 代	橋 昌 信 140

なお、本報告書の編集は賀川光夫、橋昌信が担当した。

## 2. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

### 筑紫郡太宰府町所在御笠川南条坊遺跡 (1) 第2集

	頁
一、はじめに	新原正典 1
二、位置と環境	2
三、調査経過	5
四、層位	前川威洋 6
五、遺構	新原正典 6
1. 建物・柱穴	7
2. 溝	7
3. 土壙	8
4. 井戸	10
六、遺物	前川威洋 14
1. 須恵器・土師器	14
2. SK 546土壙出土土器	17
3. 下層土師器・I類	17
4. 上層土師器・II類	19
5. 土鍋	31
6. 片口	31
7. 火鉢・土釜	33
8. 磁器	33
9. 雑器	40
10. 常滑陶器	44
11. 瓦	47
12. 墨書礫	新原正典 48
13. 石製品	48
14. 土製品	49
15. ガラス・金属製品	51
16. 軽石製品・砥石	52
17. 石鍋	53
18. 銅銭	54
19. 木製品	55
20. 下駄	59
21. 履物状木製品	66
七、おわりに	72
付 水城地区(水城跡)の調査	浜田信也 73

### 3. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

#### 第 3 集

筑紫郡太宰府町所在御笠川南条坊遺跡 (2)

#### 第 3 次 調 査

	頁
一、はじめに.....新原正典.....	2
二、調査経過.....	4
三、層位.....前川威洋.....	5
四、遺構.....新原正典.....	6
1. 建物・柱穴.....	6
2. 溝.....	6
3. 土 壙.....	8
4. 井 戸.....	12
五、遺物.....	13
1. 下層土師器・Ⅰ類.....前川威洋.....	13
2. 上層土師器・Ⅱ類.....	27
3. 須恵器.....	48
4. 片 口.....	48
5. 火 舎.....	50
6. 彩釉陶器.....	50
7. 磁 器.....	51
8. 雑 器.....	57
9. 灰釉陶器、古瀬戸、常滑陶器.....	60
10. 瓦.....	60
11. 石製品.....新原正典.....	60
12. ガラス製小玉.....	62
13. 金属製品.....	62
14. 銅 銭.....	63
15. 木製品.....	65

## 第 4 次 調 査

	頁
一、調査経過	新 原 正 典……………68
二、層 位	前 川 威 洋……………69
三、遺 構	新 原 正 典……………70
1. 建物・柱穴	……………70
2. 溝	……………71
3. 土 壙	……………71
4. 井 戸	……………73
四、遺 物	……………75
1. 中層土師器・Ⅱ類	前 川 威 洋……………75
2. 上層土師器・Ⅱ類	"……………81
3. 磁 器	"……………85
4. 雑 器	"……………88
5. 瓦	"……………90
6. 石製品	新 原 正 典……………90
7. 土製品, 砥石	"……………97
8. ガラス製小玉	"……………99
9. 金属製品	"……………99
10. 銅 印	倉 住 靖 彦……………102
11. 銅 銭	新 原 正 典……………105
五、お わ り に	前川威洋・新原正典……………117

# 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

## 第 4 集

筑紫野市所在永岡甕棺遺跡（図版編）

### 図 版 目 次

- 図版 1 南区遺構出土状態（南から）
- 2 24号甕棺墓人骨出土状態
- 3 1. 遺跡全景（東から）  
2. 遺跡全景（南から）
- 4 1. 南区遺構出土状態（西から）  
2. 南区遺構出土状態（西から）
- 5 1. 北区遺構出土状態（西から）  
2. 北区遺構出土状態（東から）
- 6 1. 北区 pit 群出土状態（西から）  
2. 北区 pit 群内土器出土状態
- 7 1. 土壙墓出土状態（西から）  
2. pit 群・溝出土状態（南から）
- 8 1. pit 群・出土状態（南から）  
2. pit 群・溝出土状態（南から）
- 9 1. 2号 pit  
2. 4号 pit
- 10 1. 3号 pit  
2. 3号 pit 内土器出土状態
- 11 1. 5号 pit  
2. 5号 pit 内土器出土状態
- 12 1. 6号 pit  
2. 7号 pit
- 13 1. 8号 pit  
2. 9号 pit
- 14 1. 南区溝（西から）  
2. 南区溝内土器出土状態
- 15 1. 1号甕棺墓  
2. 2号甕棺墓（上），3号甕棺墓（下）

- 图版16 1. 4号甕棺墓（左），5号甕棺墓（右）  
2. 4号甕棺墓人骨出土状态
- 17 1. 6号甕棺墓（左），7号甕棺墓（右）  
2. 8号甕棺墓
- 18 1. 9号甕棺墓  
2. 9号甕棺墓人骨出土状态
- 19 1. 10号甕棺墓  
2. 10号甕棺墓人骨出土状态
- 20 1. 11号甕棺墓  
2. 11号甕棺墓人骨出土状态
- 21 1. 12号甕棺墓（上），13号甕棺墓（下）  
2. 12号甕棺墓人骨出土状态
- 22 1. 12号甕棺墓（右），13号甕棺墓（左）  
2. 13号甕棺墓人骨出土状态
- 23 1. 14号甕棺墓  
2. 14号甕棺墓人骨出土状态
- 24 1. 15号甕棺墓  
2. 15号甕棺墓人骨出土状态
- 25 1. 15号甕棺墓（右），16号甕棺墓（左）  
2. 17号甕棺墓
- 26 1. 18号甕棺墓  
2. 21号甕棺墓
- 27 1. 22号甕棺墓  
2. 23号甕棺墓
- 28 1. 24号甕棺墓  
2. 24号甕棺墓人骨出土状态
- 29 1. 25号甕棺墓  
2. 25号甕棺墓人骨出土状态
- 30 1. 26号甕棺墓  
2. 26号甕棺墓人骨出土状态
- 31 1. 27号甕棺墓  
2. 27号甕棺墓人骨出土状态
- 32 1. 28号甕棺墓  
2. 28号甕棺墓人骨出土状态
- 33 1. 29号甕棺墓  
2. 31号甕棺墓

- 图版34 1. 30号甕棺墓  
2. 30号甕棺墓人骨出土状态
- 35 1. 32号甕棺墓  
2. 32号甕棺墓人骨出土状态
- 36 1. 33号甕棺墓  
2. 33号甕棺墓人骨出土状态
- 37 1. 34号甕棺墓  
2. 37号甕棺墓
- 38 1. 35号甕棺墓  
2. 35号甕棺墓人骨出土状态
- 39 1. 36号甕棺墓  
2. 36号甕棺墓人骨出土状态
- 40 1. 19号甕棺墓（上），38号甕棺墓（下）  
2. 38号甕棺墓人骨出土状态
- 41 1. 39号甕棺墓  
2. 39号甕棺墓人骨出土状态
- 42 1. 40号甕棺墓  
2. 43号甕棺墓
- 43 1. 41号甕棺墓  
2. 41号甕棺墓人骨出土状态
- 44 1. 42号甕棺墓  
2. 42号甕棺墓人骨出土状态
- 45 1. 44号甕棺墓（左），45号甕棺墓（右）  
2. 44号甕棺墓人骨出土状态
- 46 1. 45号甕棺墓  
2. 45号甕棺墓人骨出土状态
- 47 1. 46号甕棺墓  
2. 47号甕棺墓
- 48 1. 48号甕棺墓  
2. 48号甕棺墓人骨出土状态
- 49 1. 50号甕棺墓  
2. 51号甕棺墓
- 50 1. 52号甕棺墓  
2. 53号甕棺墓
- 51 1. 5号甕棺墓埋地状态  
2. 42号甕棺墓埋地状态

## 5. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

### 第 5 集

筑紫野市所在永岡甕棺遺跡（本文編）

第1 序	説	濱田信也	1
1.	はじめに	〃	1
2.	調査の経過	〃	2
第2	遺跡の位置	〃	5
第3	遺構と遺物	濱田信也 新原正典	8
1.	甕棺墓	〃	8
2.	土壙墓	〃	55
3.	溝と竪穴	〃	55
第4	出土人骨について	永井昌文	64
第5	葬法について	濱田信也	66
第6	結 び	〃	85

## 6. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

### 第 6 集

筑紫郡太宰府町所在御笠川南条坊遺跡 (3)

一、は	じ	め	に	新原正典	1		
二、調	査	経	過	〃	3		
三、層		位		〃	4		
四、遺		構		〃	5		
1.	建	物	・	柱	穴	〃	5
2.	溝			〃	5		
3.	土	壙		〃	7		
4.	井	戸		〃	9		
五、遺		物			27		

1. 須 恵 器	馬 田 弘 稔	27
2. 下層土師器・I類	前 川 威 洋	39
3. 上層土師器・II類	〃	50
4. 片 口	〃	76
5. 土 鍋	〃	78
6. 土 釜	〃	78
7. 瓦 器 椀	〃	78
8. 磁 器	〃	78
9. 雑 器	〃	85
10. 常滑陶器	〃	87
11. 石 製 品	新 原 正 典	89
12. 金 属 製 品	〃	90
13. 土製品・木製品	〃	93
14. 下 駄	〃	94
15. 銅 銭	〃	94
六、お わ り に	前 川 威 洋	99

## 7. 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

### 第 7 集

筑紫郡太宰府町所在君畑遺跡

一、は じ め に	新 原 正 典	頁 1
二、調 査 経 過	〃	3
三、遺 構 と 遺 物		5
1. 溝	新 原 正 典	5
2. 古 墳	〃	5
3. 平安時代の古墳群	前 川 威 洋 新 原 正 典	13
4. 1号墳玄室内出土遺物	前 川 威 洋	41
5. ヘラ書き銘文について	倉 住 靖 彦	47
四、お わ り に	前 川 威 洋	56

# 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告

## 第 8 集

筑紫郡太宰府町所在御笠川南条坊遺跡 (4)

	頁
I. はじめに	1
II. 第 1 次 調 査	4
一、調 査 の 経 過	4
二、層 位	4
三、遺 構	5
1. 建物・柱穴	5
2. 溝	5
3. 土 壙	6
4. 井 戸	7
5. その他の遺構	14
四. 遺 物	
1. 須 恵 器	16
2. 下層土師器・Ⅰ類	19
3. 上層土師器・Ⅱ類	21
4. 須恵質および瓦質土器	28
5. その他の土師器	28
6. 瓦器・内黒土器	28
7. 磁 器	30
8. 雑 記	41
9. 滑 石 製 品	45
10. その他の石製品	55
11. 土 製 品	57
12. 木 製 品	61
13. 鉄 製 品	68
14. 銅 錢	70
15. 鋳物関係遺物	74
III. 第 2 次 調 査	
一、調 査 の 経 過	74

	頁
二、層位	浜田信也……………74
三、遺構	……………75
1. 建物・柱穴	浜田信也……………75
2. 溝	……………77
3. 土壙	……………78
4. 井戸	新原正典……………81
5. 窯跡	浜田信也……………88
四、遺物	……………
1. 土師器・Ⅱ類	田浦郁子……………89
2. 須恵質および瓦質土器	馬田弘稔……………118
3. その他の土師器	……………122
4. 瓦器	前川威洋……………124
5. 磁器	……………124
6. 雑器	……………146
7. 灰釉陶器・古瀬戸・常滑陶器	……………157
8. 滑石製品	馬田弘稔……………157
9. その他の石製品	……………162
10. 土製品	……………165
11. 木製品	新原正典……………165
12. 鉄製品	浜田信也……………169
13. 銅銭	新原正典……………170
14. 鋳物関係遺物	浜田信也……………173
15. 呪術関係遺物	……………186
IV. 御笠川南条坊遺跡出土の陶磁器破片の蛍光X線分析	……………
	竹山尚賢 中島紀美枝……………194
	坂本栄治 山田昭郎
V. おわりに	浜田信也……………212
一、第1・2次調査出土の井戸について	新原正典……………212
二、御笠川南条坊遺跡出土の陶磁器片の蛍光X線分析の結果について	前川威洋……………214
VI. 都府楼前条坊遺跡	前川威洋……………215
	馬田弘稔
一、はじめに	……………215
二、調査の概要	……………215
三、まとめ	……………217



4. 石製品・土製品	57
5. 木製品	57
6. まとめ	58

## 付Ⅱ

1. I-1A以前の土師器について	田浦郁子	61
2. 輸入陶磁器にみられる焼台および重ね焼の痕跡について	森田勉	63

福岡南バイパス関係  
埋蔵文化財調査報告

第 9 集

昭和 55 年 3 月 31 日

発 行 福岡県教育委員会  
福岡市中央区西中洲 6-29

印 刷 有限会社 松古堂印刷  
福岡市西区大字周船寺 407